

326

N684k

法令

禁電

刑法

035600-000-0

326-N684k

刑法

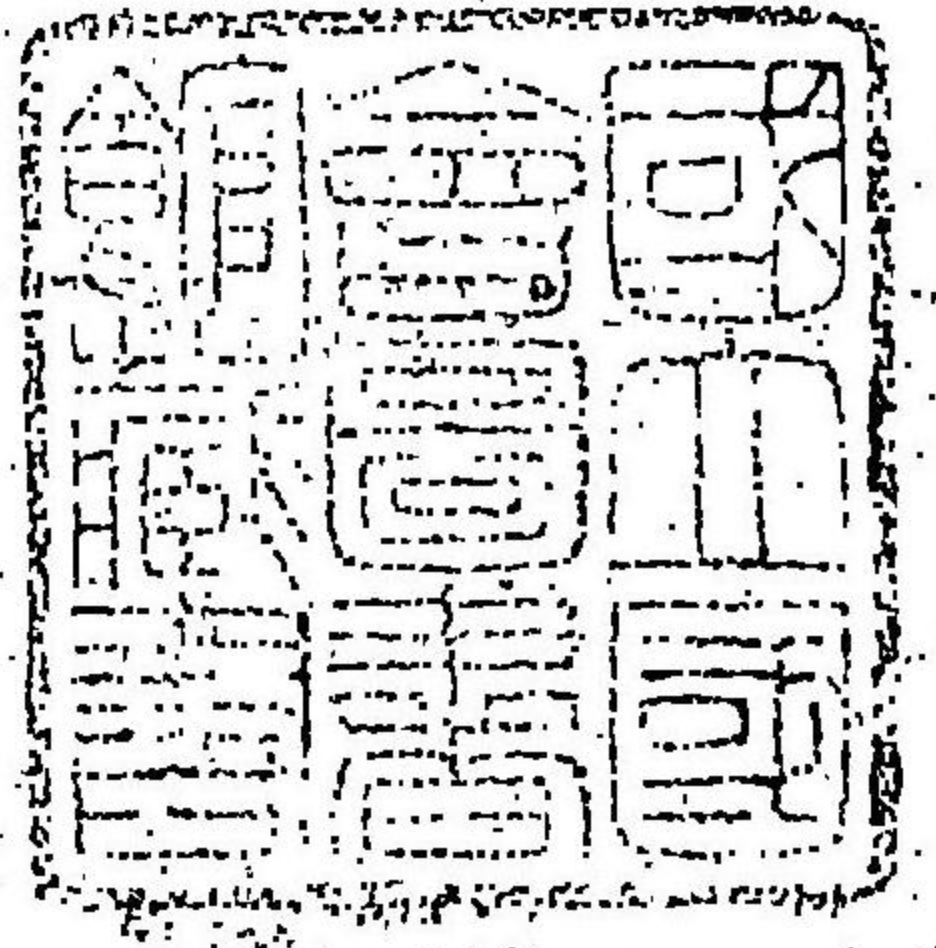
長島 恭三郎 / 刊

M30

BBP-0152



326 N 684 fe



○刑法

明治三十三年七月十七日
布告第三十六號

刑法別冊ノ通改定候條此旨布告候事

但實際施行ノ期日ハ退テ布告スヘキ事第十四
六號ヲ以テ十五年一月一
日ヨリ實施ノ旨ヲ布告ス

刑法目錄

第一編 總則

第一章 法例

第二章 刑例

第一節 刑名

第二節 主刑處分

第三節 附加刑處分

第四節 徵償處分

第五節 刑期計算

第六節 假出獄

第七節 期滿免除

第八節 復權

第三章 加減例

刑法目錄

一 全 頁
二 全 頁
三 全 頁
四 全 頁
五 全 頁
六 全 頁
七 全 頁
八 全 頁

第四章 不論罪及ヒ減輕

第一節 不論罪及ヒ宥恕減輕

第二節 自首減輕

第三節 酌量減輕

第五章 再犯加重

第六章 加減順序

第七章 數罪俱發

第八章 數人共犯

第一節 正犯

第二節 從犯

第九章 未遂犯罪

第十章 親屬例

第二編 公益ニ關スル重罪輕罪

第一章 皇室ニ對スル罪

第二章 國事ニ關スル罪

第一節 內亂ニ關スル罪

第二節 外患ニ關スル罪

第三章 靜謐ヲ害スル罪

九 全 頁
十 全 頁
十一 全 頁
十二 全 頁
十三 全 頁
十四 全 頁
十五 全 頁
十六 全 頁
十七 全 頁

326 N 684

第一節 兇徒聚衆ノ罪	十七頁	偽造スル罪	二十六頁
第二節 官吏ノ職務ヲ行フヲ妨害スル罪	全	第六節 偽證ノ罪	全
第三節 囚徒逃走ノ罪及ヒ罪人ヲ藏匿スル罪	十八頁	第七節 度量衡ヲ偽造スル罪	二十八頁
第四節 附加刑ノ執行ヲ遁ル、罪	十九頁	第八節 身分ヲ詐稱スル罪	全
第五節 私ニ軍用ノ銃砲彈藥ヲ製造シ及ヒ所有スル罪	全	第九節 公撰ノ投票ヲ偽造スル罪	二十九頁
第六節 往來通信ヲ妨害スル罪	二十頁	第五章 健康ヲ害スル罪	全
第七節 人ノ住所ヲ侵スル罪	二十一頁	第一節 阿片煙ニ關スル罪	全
第八節 官ノ封印ヲ破棄スル罪	全	第二節 飲料ノ淨水ヲ汚穢スル罪	三十頁
第九節 公務ヲ行フヲ拒ム罪	全	第三節 傳染病豫防規則ニ關スル罪	全
第四章 信用ヲ害スル罪	二十二頁	第四節 危害品及ヒ健康ヲ害スル物品製造ノ規則ニ關スル罪	全
第一節 貨幣ヲ偽造スル罪	全	第五節 健康ヲ害スルキ飲食食物及ヒ藥劑ヲ販賣スル罪	三十一頁
第二節 官印ヲ偽造スル罪	二十四頁	第六節 私ニ醫業ヲ爲スル罪	全
第三節 官ノ文書ヲ偽造スル罪	全	第六章 風俗ヲ害スル罪	全
第四節 私印私書ヲ偽造スル罪	二十五頁	第七章 死屍ヲ毀棄シ及ヒ墳墓ヲ發	全
第五節 免狀鑑札及ヒ疾病證書ヲ			

捕スル罪

三十二頁

第八章 商業及ヒ農工ノ業ヲ妨害スル罪

ル罪

全

第九章 官吏瀆職ノ罪

三十三頁

第一節 官吏公益ヲ害スル罪 全

第二節 官吏人民ニ對スル罪 全

第三節 官吏財産ニ對スル罪 三十五頁

第三編 身體財産ニ對スル重罪輕罪

三十六頁

第一章 身體ニ對スル罪

全

第一節 謀殺故殺ノ罪 全

第二節 毆打創傷ノ罪 全

第三節 殺傷ニ關スル宥恕及ヒ不

論罪

三十七頁

第四節 過失殺傷ノ罪 三十八頁

第五節 自殺ニ關スル罪 三十九頁

第六節 擅ニ人ヲ逮捕監禁スル罪 全

第七節 脅迫ノ罪 全

第八節 墮胎ノ罪 四十頁

第九節 幼者又ハ老疾者ヲ遊樂スル罪

ル罪

四十頁

第十節 幼者ヲ略取誘拐スル罪 四十一頁

第十一節 猥褻姦淫重婚ノ罪 全

第十二節 誣告及ヒ誹毀ノ罪 四十二頁

第十三節 祖父母父母ニ對スル罪 四十三頁

第二章 財産ニ對スル罪

四十四頁

第一節 竊盜ノ罪 全

第二節 強盜ノ罪 四十五頁

第三節 遺失物埋藏物ニ關スル罪 全

第四節 家資分散ニ關スル罪 四十六頁

第五節 詐欺取財ノ罪及ヒ受寄財物ニ關スル罪 全

第六節 贓物ニ關スル罪 四十七頁

第七節 放火失火ノ罪 全

第八節 決水ノ罪 四十八頁

第九節 船舶ヲ覆没スル罪 全

第十節 家屋物品ヲ毀壞シ及ヒ勳

植物ヲ害スル罪 四十九頁

附錄

刑法附則

五十三頁

刑法附則中改正

六十一頁

讒謗律

六十二頁

賭博犯特別例廢止

六十三頁

決闘罪

全

竊盜罪

六十四頁

公署公吏并公署ノ印文書及免狀鑑札ニ關スル件

刑法

第一編 總則

第一章 法例

第一條 凡法律ニ於テ罰ス可キ罪別テ三種ト爲ス

一重罪

二輕罪

三違警罪

第二條 法律ニ正條ナキ者ハ何等ノ所爲ト雖モ之ヲ罰スルヲ得ス

第三條 法律ハ頒布以前ニ係ル犯罪ニ及ホスヲ得ス

若シ所犯頒布以前ニ在テ未ダ判決ヲ經サル者ハ新舊ノ法ヲ比照シ輕キニ從テ處斷ス

第四條 此刑法ハ陸海軍ニ關スル法律ヲ以テ論ス可キ者ニ適用スルヲ得ス

第五條 此刑法ニ正條ナクシテ他ノ法律規則ニ刑名アル者ハ各其法律規則ニ從フ

刑法 第一編 總則

若シ他ノ法律規則ニ於テ別ニ總則ヲ掲ケサル者ハ此刑法ノ總則ニ從フ

第二章 刑例

第一節 刑名

第六條 刑ハ主刑及ヒ附加刑ト爲ス

主刑ハ之ヲ宣告ス

附加刑ハ法律ニ於テ其宣告スル者ト宣告セサル者ト決定ス

第七條 左ニ記載シタル者ヲ以テ重罪ノ主刑ト爲ス

一死刑

二無期徒刑

三有期徒刑

四無期流刑

五有期徒刑

六重懲役

七輕懲役

八重禁獄

九輕禁獄

第八條 左ニ記載シタル者ヲ以テ輕罪ノ主刑ト爲ス

- 一 重禁錮
- 二 輕禁錮
- 三 罰金

第九條 左ニ記載シタル者ヲ以テ違警罪ノ主刑ト爲ス

- 一 拘留
- 二 科料

第十條 左ニ記載シタル者ヲ以テ附加刑ト爲ス

- 一 剝奪公權
- 二 停止公權
- 三 禁治產
- 四 監視
- 五 罰金
- 六 沒收

第十一條 刑ヲ執行シ及ヒ犯人ヲ檢束スル方法

細目ハ別ニ規則ヲ以テ之ヲ定ム

第二節 主刑處分

第十二條 死刑ハ絞首ス但規則ニ定ムル所ノ官吏臨檢シ獄内ニ於テ之ヲ行フ

第十三條 死刑ハ司法卿ノ命令アルニ非サレハ之ヲ行フヲ得ス

第十四條 大祀令節國祭ノ日ハ死刑ヲ行フヲ禁ス

第十五條 死刑ノ宣告ヲ受ケタル婦女懷胎ナル時ハ其執行ヲ停メ分娩後一百日ヲ經ルニ非サレハ刑ヲ行ハス

第十六條 死刑ノ遺骸ハ親屬故舊請フ者アレハ之ヲ下付ス但式ヲ用ヒテ葬ルヲ許サス

第十七條 徒刑ハ無期有期ヲ分メ島地ニ發遣シ定役ニ服ス

第十八條 徒刑ノ婦女ハ島地ニ發遣セス内地ノ懲役場ニ於テ定役ニ服ス

第十九條 徒刑ノ囚六十歳ニ滿ル者ハ通常ノ定役ヲ免シ其體力相當ノ定役ニ服ス

第二十條 流刑ハ無期有期ヲ分メ島地ノ獄ニ幽閉シ定役ニ服セス

有期流刑ハ十二年以上十五年以下ト爲ス

第二十一條 無期流刑ノ囚五年ヲ經過スレハ行政ノ處分ヲ以テ幽閉ヲ免シ嶋地ニ於テ地ヲ限リ居住セシムルヲ得

有期流刑ノ囚三年ヲ經過スル者亦同シ

第二十二條 懲役ハ内地ノ懲役場ニ入レ定役ニ服ス但六十歳ニ滿ル者ハ第十九條ノ例ニ從フ重懲役ハ九年以上十一年以下輕懲役ハ六年以上八年以下ト爲ス

第二十三條 禁獄ハ内地ノ獄ニ入レ定役ニ服セス

重禁獄ハ九年以上十一年以下輕禁獄ハ六年以上八年以下ト爲ス

第二十四條 禁錮ハ禁錮場ニ留置シ重禁錮ハ定

役ニ服シ輕禁錮ハ定役ニ服セス

禁錮ハ重輕ヲ分メ十一日以上五年以下ト爲シ仍ホ各本條ニ於テ其長短ヲ區別ス

第二十五條 定役ニ服スル囚人ノ工錢ハ監獄ノ規則ニ從ヒ其幾分ヲ獄舎ノ費用ニ供シ其幾分ヲ囚人ニ給與ス但現役百日以内ハ給與ノ限ニ在ラス

第二十六條 罰金ハ二圓以上ト爲シ仍ホ各本條ニ於テ其多寡ヲ區別ス

第二十七條 罰金ハ裁判確定ノ日ヨリ一月内ニ納完セシム若シ限内納完セサル者ハ一圓ヲ一日ニ折算シ之ヲ輕禁錮ニ換フ其一圓ニ滿サル者ト雖モ仍一日ニ計算ス

罰金ヲ禁錮ニ換フル者ハ更ニ裁判ヲ用ヒス檢察官ノ求ニ因リ裁判官之ヲ命ス但禁錮ノ期限ハ二年ニ過クルヲ得ス

若シ禁錮限内罰金ヲ納メタル時ハ其經過シタル日數ヲ扣除シ禁錮ヲ免ス親屬其他ノ者代

罰金ヲ納メタル時亦同シ

第二十八條 拘留ハ拘留所ニ留置シ定役ニ服セ
ス其刑期ハ一日以上十日以下ト爲シ仍ホ各本
條ニ於テ其長短ヲ區別ス

第二十九條 科料ハ五錢以上一圓九十五錢以下
ト爲シ仍ホ各本條ニ於テ其多寡ヲ區別ス

第三十條 科料ハ裁判確定ノ日ヨリ十日内ニ納
完セシム若シ限内納完セサル者ハ第二十七條
ノ例ニ照シ之ヲ拘留ニ換フ

第三節 附加刑處分

第三十一條 剝奪公權ハ左ノ權ヲ剝奪ス
一國民ノ特權

二官吏ト爲ルノ權

三勳章年金位記貴號恩給ヲ有スルノ權

四外國ノ勳章ヲ佩用スルノ權

五兵籍ニ入ルノ權

六裁判所ニ於テ証人ト爲ルノ權但單ニ事實ヲ
陳述スルハ此限ニ在ラス

七後見人ト爲ルノ權但親屬ノ許可ヲ得テ子孫
ノ爲メニスルハ此限ニ在ラス

八分散者ノ管財人ト爲リ又ハ會社及ヒ共有財
産ヲ管理スルノ權

九學校長及ヒ教師學監ト爲ルノ權

第三十二條 重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ別ニ
宣告ヲ用ヒス終身公權ヲ剝奪ス

第三十三條 禁錮ニ處セラレタル者ハ別ニ宣告
ヲ用ヒス現任ノ官職ヲ失ヒ及ヒ其刑期間公權
ヲ行フヲ停止ス

第三十四條 輕罪ノ刑ニ於テ監視ニ付シタル者
ハ別ニ宣告ヲ用ヒス監視ノ期限間公權ヲ行フ
ヲ停止ス

主刑ヲ免シテ止タ監視ニ付シタル者亦同シ
第三十五條 重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ別ニ
宣告ヲ用ヒス其主刑ノ終ルマテ自ラ財產ヲ治
ムルヲ禁ス

第三十六條 流刑ノ囚幽閉ヲ免セラレタル時ハ
内ニ納完セサル時ハ第二十七條ノ例ニ照シ輕
禁錮ニ換ヘ主刑滿限ノ後之ヲ執行ス

第四十三條 左ニ記載シタル物件ハ宣告シテ官
ニ沒收ス但法律規則ニ於テ別ニ沒收ノ例ヲ定
メタル者ハ各其法律規則ニ從フ
一法律ニ於テ禁制シタル物件
二犯罪ノ用ニ供シタル物件
三犯罪ニ因テ得タル物件

第四十四條 法律ニ於テ禁制シタル物件ハ何人
ノ所有ヲ問ハス之ヲ沒收ス犯罪ノ用ニ供シ及
ヒ犯罪ニ因テ得タル物件ハ犯人ノ所有ニ係リ
又ハ所有主ナキ時ノ外之ヲ沒收スルヲ得ス

第四節 徵償處分
第四十五條 刑事ノ裁判費用ハ其全部又ハ幾分
ヲ犯人ニ科ス但其費用ノ額ハ別ニ規則ヲ以テ
之ヲ定ム

第四十六條 犯人刑ニ處セラレ又ハ放免セラレ
ト雖モ被害者ノ請求ニ對シ贓物ノ還給損害

行政ノ處分ヲ以テ治産ノ禁ノ幾分ヲ免スルヲ
得

第三十七條 重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ別ニ
宣告ヲ用ヒス各本刑ノ短期三分ノ一ニ等シキ
時間監視ニ付ス

第三十八條 輕罪ノ刑ニ附加スル監視ハ之ヲ宣
告ス但各本條ニ記載スルノ外監視ニ付スルヲ
得ス

第三十九條 死刑及ヒ無期刑ノ期滿免除ヲ得タ
ル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス五年間監視ニ付ス

第四十條 監視ノ期限ハ主刑ノ終リタル日ヨリ
起算ス主刑ノ期滿免除ヲ得タル時ハ其捕ニ就
キタル日ヨリ起算ス

若シ主刑ヲ免シテ止タ監視ニ付シタル時ハ其
裁判確定ノ日ヨリ起算ス

第四十一條 監視ニ付セラレタル者其情狀ニ因
リ行政ノ處分ヲ以テ假ニ監視ヲ免スルヲ得

第四十二條 附加ノ罰金ハ之ヲ宣告ス若シ一月
刑注 第一編 總則

ノ賠償ヲ免カル、ト得ス

第四十七條 數人共犯ニ係ル裁判費用贓物ノ還

給損害ノ賠償ハ共犯人ヲシテ之ヲ連帶セシム

第四十八條 裁判費用贓物ノ還給損害ノ賠償ハ

被害者ノ請求ニ因リ刑事裁判所ニ於テ之ヲ審

判スルコトヲ得若シ贓物犯人ノ手ニアル時ハ請

求ナシト雖モ直チニ之ヲ被害者ニ還付ス

第五節 刑期計算

第四十九條 刑期ヲ計算スルニ一日ト稱スルハ

二十四時ヲ以テシ一月ト稱スルハ三十日ヲ以

テシ一年ト稱スルハ曆ニ從フ

受刑ノ初日ハ時間ヲ論セス一日ニ算入シ放免

ノ日ハ刑期ニ算入セス

第五十條 刑ハ裁判確定シタル後ニ非サレハ之

ヲ執行スルコトヲ得ス

第五十一條 刑期ハ刑名宣告ノ日ヨリ起算ス若

シ上訴ヲ爲シタル者ハ左ノ例ニ從フ

一犯人自ラ上訴シテ其上訴正當ナル時ハ前判

宣告ノ日ヨリ起算ス若シ其上訴不當ナル時

ハ後判宣告ノ日ヨリ起算ス

二檢察官ノ上訴ニ係ル者ハ其上訴正當ナルト

否トシテ分メテ前判宣告ノ日ヨリ起算ス

三上訴中保釋ヲ得又ハ責付セラレタル者ハ其

日數ヲ刑期ニ算入スルコトヲ得ス

第五十二條 刑期限内逃走シ再ヒ捕コ就キタル

者ハ其逃走ノ日數ヲ除キ前後受刑ノ日ヲ計算

ス

第六節 假出獄

第五十三條 重罪輕罪ノ刑ニ處セラレタル者獄

則チ謹守シ悔改ノ狀アル時ハ其刑期四分ノ三

ヲ經過スルノ後行政ノ處分ヲ以テ假ニ出獄ヲ

許スコトヲ得

無期徒刑ノ囚ハ十五年ヲ經過スルノ後亦同シ

流刑ノ囚ハ第二十一條ニ照シ幽閉ヲ免ヌルノ

外假出獄ノ例ヲ用ヒス

第五十四條 徒刑ノ囚ハ假出獄ヲ許サル、ト雖

モ仍ホ島地ニ居住セシム

第五十五條 假出獄ヲ許サレタル者ハ行政ノ處

分ヲ以テ治産ノ禁ノ幾分ヲ免スルコトヲ得但本

刑期限内特別ニ定メタル監視ニ付ス

第五十六條 假出獄中更ニ重罪輕罪ヲ犯シタル

者ハ直チニ出獄ヲ停止シ出獄中ノ日數ハ刑期

ニ算入スルコトヲ得ス

第五十七條 刑期限内更ニ重罪輕罪ヲ犯シタル

者ハ假出獄ヲ許サス

第七節 期滿免除

第五十八條 刑ノ執行ヲ通レタル者法律ニ定メ

タル期限ヲ經過スルニ因テ期滿免除ヲ得

第五十九條 主刑ハ左ノ年限ニ從テ期滿免除ヲ

得

一死刑ハ三十年

二無期徒刑ハ二十五年

三有期徒刑ハ二十年

四重懲役重禁獄ハ十五年

刑法 第一編 總則

五輕懲役輕禁獄ハ十年

六禁錮罰金ハ七年

七拘留料糶ハ一年

第六十條 剝奪公權停止公權及ヒ監視ハ期滿免

除ヲ得ス

附加ノ罰金ハ主刑ト共ニ期滿免除ヲ得

沒收ハ五年ヲ經テ期滿免除ヲ得但禁制物ハ期

滿免除ノ限ニ在ラス

第六十一條 期滿免除ハ刑ノ執行ヲ通レタル日

ヨリ起算ス若シ捕コ就キ再ヒ逃走シタル時ハ

其逃走ノ日ヨリ起算シ關席裁判ニ係ル時ハ其

宣告ノ日ヨリ起算ス

第六十二條 刑ノ執行ヲ通レタル者ニ對シ逮捕

ヲ命シタル時ハ最終ノ令狀ヲ出シタル日ヨリ

期滿免除ヲ起算ス

第八節 復權

第六十三條 公權ヲ剝奪セラレタル者ハ主刑ノ

終リタル日ヨリ五年ヲ經過スルノ後其情狀ニ

因リ將來ノ公權ヲ復スルヲ得
主刑ノ期滿免除ヲ得タル者ハ監視ニ付ヤタル
日ヨリ五年ヲ經過スルノ後亦同シ

第六十四條 大赦ニ因テ免罪ヲ得タル者ハ直チ
ニ復權ヲ得特赦ニ因テ免罪ヲ得タル者ハ赦狀
中記載スルニ非サレハ復權ヲ得ス
赦ニ因テ復權ヲ得タル者ハ自ラ監視ヲ免メタ
ル者トス

第六十五條 復權ハ勅裁ニ非サレハ之ヲ得可カ
ラス

第三章 加減例

第六十六條 法律ニ於テ刑ヲ加重減輕ス可キ時
ハ後ノ數條ニ記載シタル例ニ照シテ加減ス但
加ヘテ死刑ニ入ルヲ得ス

第六十七條 重罪ノ刑ハ左ノ等級ニ照シテ加減
ス

- 一死刑
- 二無期徒刑

- 三有期徒刑
- 四重懲役
- 五輕懲役

第六十八條 國事ニ關スル重罪ノ刑ハ左ノ等級
ニ照シテ加減ス

- 一死刑
- 二無期流刑
- 三有期流刑
- 四重禁獄
- 五輕禁獄

第六十九條 輕懲役ニ該ル者減輕ス可キ時ハ二
年以上五年以下ノ重禁錮ニ處スルヲ以テ一等
ト爲ス

輕禁獄ニ該ル者減輕ス可キ時ハ二年以上五年
以下ノ輕禁錮ニ處スルヲ以テ一等ト爲ス

第七十條 禁錮罰金ニ該ル者減輕ス可キ時ハ各
本條ニ記載シタル刑期金額ノ四分ノ一ヲ減ス
ルヲ以テ一等ト爲シ其加重ス可キ時ハ亦四分

ノ一ヲ加フルヲ以テ一等ト爲ス

輕罪ノ刑ハ加ヘテ重罪ニ入ルヲ得ス但禁錮
ハ加ヘテ七年ニ至ルヲ得

第七十一條 禁錮ヲ減盡シタル時ハ拘留ニ處シ
罰金ヲ減盡シタル時ハ科料ニ處ス禁錮罰金ヲ
減シテ其短期十日以下寡數一圓九十五錢以下
ニ及フ時ハ亦拘留科料ニ處スルヲ得

第七十二條 拘留科料ニ該ル者加減ス可キ時ハ
禁錮罰金ノ例ニ照シ其四分ノ一ヲ加減スルヲ
以テ一等ト爲ス

違警罪ノ刑ハ加ヘテ輕罪ニ入ルヲ得ス但拘
留ハ加ヘテ十二日ニ至ルヲ得減シテ一日以
下ニ降スヲ得ス科料ハ加ヘテ二圓四十錢ニ
至ルヲ得減シテ五錢以下ニ降スヲ得ス

第七十三條 禁錮拘留ヲ加減スルニ因テ其期限
ニ零數ヲ生シ一日ニ滿サル時ハ之ヲ除棄ス

第七十四條 附加ノ罰金ハ主刑ニ從テ加減シ其
金額ノ四分ノ一ヲ加減スルヲ以テ一等ト爲ス

刑法 第一編 總則

若シ減盡シタル時ハ止テ主刑ヲ科ス

第四章 不論罪及ヒ減輕

第一節 不論罪及ヒ宥恕減輕

第七十五條 抗拒ス可カラサル強制ニ遇ヒ其意
ニ非サルノ所爲ハ其罪ヲ論セス

天災又ハ意外ノ變ニ因リ避ク可カラサル危難
ニ遇ヒ自己若クハ親屬ノ身體ヲ防衛スルニ出
タル所爲亦同シ

第七十六條 本屬長官ノ命令ニ從ヒ其職務ヲ以
テ爲シタル者ハ其罪ヲ論セス

第七十七條 罪ヲ犯ス意ナキノ所爲ハ其罪ヲ論
セス但法律規則ニ於テ別ニ罪ヲ定メタル者ハ
此限ニ在ラス

罪ト爲ル可キ事實ヲ知ラヌシテ犯シタル者ハ
其罪ヲ論セス

罪本重カル可クシテ犯ス時知ラサル者ハ其重
キニ從テ論スルヲ得ス

法律規則ヲ知ラサルヲ以テ犯スノ意ナシト爲

スヲ得ス

第七十八條 罪ヲ犯ス時知覺精神ノ喪失ニ因テ是非ヲ辨別セサル者ハ其罪ヲ論セス

第七十九條 罪ヲ犯ス時十二歳ニ滿サル者ハ其罪ヲ論セス但滿八歳以上ノ者ハ情狀ニ因リ滿十六歳ニ過キサル時間之ヲ懲治場ニ留置スルヲ得

第八十條 罪ヲ犯ス時滿十二歳以上十六歳ニ滿サル者ハ其所爲是非ヲ辨別シタルト否トヲ審案ニ辨別ナクシテ犯シタル時ハ其罪ヲ論セス但情狀ニ因リ滿二十歳ニ過キサル時間之ヲ懲治場ニ留置スルヲ得

若シ辨別アリテ犯シタル時ハ其罪ヲ宥恕シテ本刑ニ二等ヲ減ス

第八十一條 罪ヲ犯ス時滿十六歳以上二十歳ニ滿サル者ハ其罪ヲ宥恕シテ本刑ニ一等ヲ減ス

第八十二條 瘡腫者罪ヲ犯シタル時ハ其罪ヲ論セス但情狀ニ因リ五年ニ過キサル時間之ヲ懲

治場ニ留置スルヲ得

第八十三條 違警罪ハ滿十六歳以上二十歳ニ滿サル者ト雖モ其罪ヲ宥恕スルヲ得ス

滿十二歳以上十六歳ニ滿サル者ハ其罪ヲ宥恕シテ本刑ニ一等ヲ減ス十二歳ニ滿サル者及ヒ瘡腫者ハ其罪ヲ論セス

第八十四條 此節ニ記載スルノ外特別ノ不論罪宥恕減輕ハ各本條ニ於テ之ヲ記載ス

第二節 自首減輕

第八十五條 罪ヲ犯シ事未タ發覺セサル前ニ於テ官ニ自首シタル者ハ本刑ニ一等ヲ減ス但謀殺放殺ニ係ル者ハ自首減輕ノ限ニ在ラス

第八十六條 財産ニ對スル罪ヲ犯シタル者自首シテ其贖物ヲ還給シ損害ヲ賠償シタル時ハ自首減輕ノ外仍ホ本刑ニ二等ヲ減ス其全部ヲ還償セスト雖モ半數以上ヲ還償シタル時ハ一等ヲ減ス

第八十七條 財産ニ對スル罪ヲ犯シ被害者ニ首

服シタル者ハ官ニ自首スルト同ク前二條ノ例ニ照シテ處斷ス

第八十八條 此節ニ記載スルノ外本條別ニ自首ノ例ヲ掲ケタル者ハ各其本條ニ從フ

第三節 酌量減輕

第八十九條 重罪輕罪違警罪ヲ分クテ所犯情狀原諒ス可キ者ハ酌量シテ本刑ヲ減輕スルヲ得

法律ニ於テ本刑ヲ加重シ又ハ減輕ス可キ者ト雖モ其酌量ス可キ時ハ仍ホ之ヲ減輕スルヲ得

第九十條 酌量減輕ス可キ者ハ本刑ニ一等又ハ二等ヲ減ス

第五章 再犯加重

第九十一條 先ニ重罪ノ刑ニ處セラレタル者再犯重罪ニ該ル時ハ本刑ニ一等ヲ加フ

第九十二條 先ニ重罪輕罪ノ刑ニ處セラレタル者再犯輕罪ニ該ル時ハ本刑ニ一等ヲ加フ

第九十三條 先ニ違警罪ノ刑ニ處セラレタル者再犯違警罪ニ該ル時ハ本刑ニ一等ヲ加フ但一年內再ヒ其違警罪裁判所ノ管轄地内ニ於テ犯シタル時ニ非サレハ再犯ヲ以テ論スルヲ得

第九十四條 再犯加重ハ初犯ノ裁判確定ノ後ニ非サレハ之ヲ論スルヲ得ス

第九十五條 刑期限内再ヒ罪ヲ犯スニ因リ刑ヲ宣告シタル時ハ先ツ其定役ニ服ス可キ者ヲ執行シ定役ニ服セサル者ヲ後ニス若シ初犯再犯共ニ定役ニ服スル刑ニ該ル時又ハ共ニ定役ニ服セサル刑ニ該ル時ハ先ツ其重キ者ヲ執行ス罰金科料ニ該ル者ハ順序ニ拘ハラヌ各之ヲ徵収ス

第九十六條 陸海軍裁判所ニ於テ判決ヲ經タル者再ヒ重罪輕罪ヲ犯シタル時ハ初犯ノ罪常律ニ從ヒ處斷シタル者ニ非サレハ再犯ヲ以テ論スルヲ得ス

第九十七條 大赦ニ因テ免罪ヲ得タル者ハ再ヒ

罪ヲ犯スト雖モ再犯ヲ以テ論スルコトヲ得ス

第九十八條 三犯以上ノ者ト雖モ其加重ノ法ハ

再犯ノ例ニ同シ

第六章 加減順序

第九十九條 犯罪ノ情狀ニ因リ總則ニ照シ同時

ニ本刑ヲ加重減輕ス可キ時ハ左ノ順序ニ從テ

其刑名ヲ定ム但從犯及ヒ未遂犯罪ノ減等其他

各本條ニ記載スル特別ノ加重減輕ハ其加減シ

タル者ヲ以テ本刑ト爲ス

一再犯加重

二宥恕減輕

三自首減輕

四酌量減輕

第七章 數罪俱發

第一百條 重罪輕罪ヲ犯シ未タ判決ヲ經ス二罪以

上俱ニ發シタル時ハ一ノ重キニ從テ處斷ス

重罪ノ刑ハ刑期ノ長キ者ヲ以テ重ト爲シ刑期

ノ等シキ者ハ定役アル者ヲ以テ重ト爲ス

輕罪ノ刑ハ其所犯情狀最重キ者ニ從テ處斷ス

第一百一條 違警罪二罪以上俱ニ發シタル時ハ各

其刑ヲ科ス若シ重罪又ハ輕罪ト俱ニ發シタル

時ハ一ノ重キニ從フ

第一百二條 一罪前ニ發シ已ニ判決ヲ經テ餘罪後

ニ發シ其輕ク若クハ等シキ者ハ之ヲ論セス其

重キ者ハ更ニ之ヲ論シ前發ノ刑ヲ以テ後發ノ

刑ニ通算ス但前發ノ刑罰金科料ニ該リ己ニ納

完シタル者ハ第二十七條ノ例ニ照シ折算シテ

後發ノ刑期ニ通算ス

若シ前發ノ罪ヲ判決スル時未タ發セサル罪再

犯ノ罪ト俱ニ發シタル者ハ其再犯ト比較シ一

ノ重キニ從ヒ前發ノ刑ヲ通算セス

第一百三條 數罪俱ニ發シ一ノ重キニ從テ時ト雖

モ其沒收及ヒ徵償ノ處分ハ各本法ニ從フ

第八章 數人共犯

第一節 正犯

第九條 重罪輕罪ヲ犯スコトヲ知テ器具ヲ給與

シ又ハ誘導指示シ其他豫備ノ所爲ヲ以テ正犯

ヲ幫助シ犯罪ヲ容易ナラシメタル者ハ從犯ト

爲シ正犯ノ刑ニ一等ヲ減ス但正犯現ニ行フ所

ノ罪從犯ノ知ル所ヨリ重キ時ハ止ク其知ル所

ノ罪ニ照シ一等ヲ減ス

第十條 身分ニ因リ刑ヲ加重ス可キ者從犯ト

爲ル時ハ其重キニ從テ一等ヲ減ス

正犯ノ身分ニ因リ刑ヲ減免ス可キ時ト雖モ從

犯ノ刑ハ其輕キニ從テ減免スルコトヲ得ス

第九章 未遂犯罪

第十一條 罪ヲ犯サントシテ謀リ又ハ其豫備ヲ

爲スト雖モ未タ其事ヲ行ハサル者ハ本條別ニ

刑名ヲ記載スルニ非サレハ其刑ヲ科セス

第十二條 罪ヲ犯サントシテ已ニ其事ヲ行フ

ト雖モ犯人意外ノ障礙若クハ舛錯ニ因リ未タ

遂ケサル時ハ已ニ遂ケタル者ノ刑ニ一等又ハ

第一百四條 二人以上現ニ罪ヲ犯シタル者ハ皆正

犯ト爲シ各自ニ其刑ヲ科ス

第一百五條 人ヲ教唆シテ重罪輕罪ヲ犯サシメタ

ル者ハ亦正犯ト爲ス

第一百六條 正犯ノ身分ニ因リ別ニ刑ヲ加重ス可

キ時ハ他ノ正犯從犯及ヒ教唆者ニ及ホスコト

得ス

第一百七條 犯人ノ多數ニ因リ刑ヲ加重ス可キ時

ハ教唆者ヲ算入シテ多數ト爲スコトヲ得ス

第一百八條 事ヲ指定シテ犯罪ヲ教唆スルニ當リ

犯人教唆ニ乘シ其指定シタル以外ノ罪ヲ犯シ

又ハ其現ニ行フ所ノ方法教唆者ノ指示シタル

所ト殊ナル時ハ左ノ例ニ照シテ教唆者ヲ處斷

ス

一所犯教唆シタル罪ヨリ重キ時ハ止ク其指定

シタル罪ニ從テ刑ヲ科ス

二所犯教唆シタル罪ヨリ輕キ時ハ現ニ行フ所

ノ罪ニ從テ刑ヲ科ス

二等ヲ減ス

第百十三條 重罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ前條ノ例ニ照シテ處斷ス

輕罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ本條別ニ記載スルニ非サレハ前條ノ例ニ照シテ處斷スルヲ得ス

違警罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ其罪ヲ論セズ

第十章 親屬例

第百十四條 此刑法ニ於テ親屬ト稱スルハ左ニ記載シタル者ヲ云フ

一 祖父母父母夫妻

二 子孫及ヒ其配偶者

三 兄弟姊妹及ヒ其配偶者

四 兄弟姊妹ノ子及ヒ其配偶者

五 父母ノ兄弟姊妹及ヒ其配偶者

六 父母ノ兄弟姊妹ノ子

七 配偶者ノ祖父母父母

十四 八配偶者ノ兄弟姊妹及ヒ其配偶者

九 配偶者ノ兄弟姊妹ノ子

第十配偶者ノ父母ノ兄弟姊妹

第百十五條 祖父母ト稱スルハ高曾祖父母外祖父母同シ父母ト稱スルハ繼父母嫡母同シ子孫ト稱スルハ庶子曾玄孫外孫同シ兄弟姊妹ト稱スルハ異父異母ノ兄弟姊妹同シ

養子其養家ニ於ル親屬ノ例ハ實子ニ同シ

第二編 公益ニ關スル重罪輕罪

第一章 皇室ニ對スル罪

第百十六條 天皇三后皇太子ニ對シ危害ヲ加ヘ又ハ加ヘントシタル者ハ死刑ニ處ス

第百十七條 天皇三后皇太子ニ對シ不敬ノ所爲アル者ハ三月以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

皇陵ニ對シ不敬ノ所爲アル者亦同シ

第百十八條 皇族ニ對シ危害ヲ加ヘタル者ハ死刑ニ處ス其危害ヲ加ヘントシタル者ハ無期徒刑ニ處ス

刑ニ處ス

第百十九條 皇族ニ對シ不敬ノ所爲アル者ハ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第百二十條 此章ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付

第二章 國事ニ關スル罪

第一節 内亂ニ關スル罪

第百二十一條 政府ヲ顛覆シ又ハ邦土ヲ僭竊シ其他朝憲ヲ紊亂スルヲ目的ト爲シ内亂ヲ起シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一 首魁及ヒ教唆者ハ死刑ニ處ス

二 群衆ノ指揮ヲ爲シ其他樞要ノ職務ヲ爲シタル者ハ無期流刑ニ處シ其情輕キ者ハ有期流刑ニ處ス

三 兵器金穀ヲ資給シ又ハ諸般ノ職務ヲ爲シタル者ハ重禁錮ニ處シ其情輕キ者ハ輕禁錮ニ

刑法 第二編 公益ニ關スル重罪輕罪

處ス

四 教唆ニ乘シテ附和隨行シ又ハ指揮ヲ受ケテ雜役ニ供シタル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第百二十二條 内亂ヲ起スノ目的ヲ以テ兵器彈藥船舶金穀其他軍備ノ物品ヲ劫掠シタル者ハ

已ニ内亂ヲ起シタル者ノ刑ニ同シ

第百二十三條 政府ヲ變亂スルノ目的ヲ以テ人ヲ謀殺シタル者ハ兵ヲ舉ルニ至ラスト雖モ内亂ト同ク論シ其教唆者及ヒ下手者ヲ死刑ニ處ス

第百二十四條 前三條ノ罪ハ未遂犯罪ノ時ニ於テ乃チ本刑ヲ科ス

第百二十五條 兵隊ヲ招募シ又ハ兵器金穀ヲ準備シ其他内亂ノ豫備ヲ爲シタル者ハ第百二十

一條ノ例ニ照シ各一等ヲ減ス

内亂ノ陰謀ヲ爲シ未タ豫備ニ至ラサル者ハ各二等ヲ減ス

第二百二十六條 内亂ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲スト雖モ未タ其事ヲ行ハサル前ニ於テ官ニ自首シタル者ハ本刑ヲ免シ六月以上三年以下ノ監視ニ付ス

第二百二十七條 内亂ノ情ヲ知テ犯人ニ集會所ヲ給與シタル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第二百二十八條 内亂ニ乘シテ人ノ身體財產ニ對シテ内亂ノ目的ニ關セサル重罪輕罪ヲ犯シタル者ハ通常ノ刑ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第二百二十九條 外國ニ與シテ本國ニ抗敵シ又ハ外國ト交戰中同盟國ニ抗敵シ其他本國ニ背叛シテ敵兵ニ附屬シタル者ハ死刑ニ處ス

第二百三十條 交戰中敵兵ヲ誘導シテ本國管内ニ入ラシメ若クハ本國及ヒ同盟國ノ都城城塞又ハ兵器彈藥船艦其他軍事ニ關スル土地家屋物件ヲ敵國ニ交付シタル者ハ死刑ニ處ス

第二百三十一條 本國及ヒ同盟國ノ軍情機密ヲ敵國ニ漏泄シ若クハ兵隊屯集ノ要地又ハ道路ノ險夷ヲ敵國ニ通知シタル者ハ無期流刑ニ處ス敵國ノ間諜ヲ誘導シテ本國管内ニ入ラシメ若クハ之ヲ藏匿シタル者亦同シ

第二百三十二條 陸海軍ヨリ委任ヲ受ケ物品ヲ供給シ及ヒ工作ヲ爲ス者交戰ノ際敵國ニ通謀シ又ハ其賂遺ヲ收受シテ命令ニ違背シ軍備ノ缺乏ヲ致シタル時ハ有期流刑ニ處ス

第二百三十三條 外國ニ對シ私ニ戰端ヲ開キタル者ハ有期流刑ニ處ス其豫備ニ止ル者ハ一等又ハ二等ヲ減ス

第二百三十四條 外國交戰ノ際本國ニ於テ局外中立ヲ布告シタル時其布告ニ違背シタル者ハ六月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス
第二百三十五條 此章ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

付ス

第三章 靜謐ヲ害スル罪

第一節 兇徒聚衆ノ罪

第二百三十六條 兇徒多衆ヲ聚衆シテ暴動ヲ謀リ官吏ノ説諭ヲ受クルト雖モ仍ホ解散セサル者首魁及ヒ教唆者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス附和隨行シタル者ハ二圓以上五圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百三十七條 兇徒多衆ヲ聚衆シテ官廳ニ喧鬧シ官吏ニ強逼シ又ハ村市ヲ騷擾シ其他暴動ヲ爲シタル者首魁及ヒ教唆者ハ重懲役ニ處ス其附和隨行シタル者ハ輕懲役ニ處シ其情輕キ者ハ一等ヲ減ス附和隨行シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百三十八條 暴動ノ際人ヲ殺死シ若クハ家屋船舶倉庫等ヲ燒燬シタル時ハ現ニ手ヲ下シ及ヒ火ヲ放ツ者ヲ死刑ニ處ス
首魁及ヒ教唆者情ヲ知テ制セサル者亦同シ

刑法 第二編 公益ニ關スル重罪輕罪

第二節 官吏ノ職務ヲ行フヲ妨害スル罪

第二百三十九條 官吏其職務ヲ以テ法律規則ヲ執行シ又ハ行政司法官署ノ命令ヲ執行スルニ當リ暴行脅迫ヲ以テ其官吏ニ抗拒シタル者ハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
暴行脅迫ヲ以テ其官吏ノ爲ス可カラサル事件ヲ行ハシメタル者ハ亦同シ

第二百四十條 前條ノ罪ヲ犯シ因テ官吏ヲ毆傷シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ一等ヲ加重シ重キニ從テ處斷ス

第二百四十一條 官吏ノ職務ニ對シ其目前ニ於テ形容若クハ言語ヲ以テ侮辱シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
其目前ニ非スト雖モ刊行ノ文書圖畫又ハ公然ノ演說ヲ以テ侮辱シタル者亦同シ

第三節 囚徒逃走ノ罪及ヒ罪人ヲ藏匿ス

第四百二十二條 已決ノ囚徒逃走シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス

若シ獄舎獄具ヲ毀壞シ又ハ暴行脅迫ヲ爲シテ逃走シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス

第四百二十三條 已決ノ囚徒逃走ノ罪ヲ犯スト雖

モ再犯ヲ以テ論セス其刑期限内再ヒ逃走シタル者ハ再犯ヲ以テ論ス

第四百二十四條 未決ノ囚徒入監中逃走シタル者

ハ第四百二十二條ノ例ニ同シ但原犯ノ罪ヲ判決スル時ニ於テ數罪俱發ノ例ニ照シテ處斷ス

第四百二十五條 囚徒三人以上通謀シテ逃走シタル時ハ第四百二十二條ノ例ニ照シ各一等ヲ加フ

第四百二十六條 囚徒ヲ逃走セシムル爲メ兇器其他ノ器具ヲ給與シ又ハ逃走ノ方法ヲ指示シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス囚徒ノ逃走

シ付セラレタル者ナルコトヲ知テ之ヲ藏匿シ若シハ隱避セシメタル者ハ十一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

若シ重罪ノ刑ニ處セラレタル囚徒ニ係ル時ハ一等ヲ加フ

第四百五十二條 他人ノ罪ヲ免カレシメノコトヲ圖

リ其罪證ト爲ル可キ物件ヲ隱蔽シタル者ハ十一月以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第四百五十三條 前二條ノ罪ヲ犯シタル者犯人ノ

親屬ニ係ル時ハ其罪ヲ論セス

第四節 附加刑ノ執行ヲ述ル、罪

第四百五十四條 公權ヲ剝奪セラレ又ハ公權ヲ停止

セラレタル者私ニ其權ヲ行ヒタル時ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第四百五十五條 監視ニ付セラレタル者其規則ニ

走ヲ致シタル時ハ一等ヲ加フ

第四百四十七條 囚徒ヲ劫奪シ又ハ暴行脅迫ヲ以テ囚徒ノ逃走ヲ助ケタル者ハ一年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

若シ重罪ノ刑ニ處セラレタル囚徒ニ係ル時ハ輕懲役ニ處ス

第四百四十八條 囚徒ヲ看守シ又ハ護送スル者囚

徒ヲ逃走セシメタル時ハ亦前條ノ例ニ同シ

第四百四十九條 前數條ニ記載シタル輕罪ヲ犯サントシテ未ダ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第四百五十條 看守又ハ護送者其懈怠ニ因リ囚徒ノ逃走ヲ覺ラサル時ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

若シ重罪ノ刑ニ處セラレタル囚徒ニ係ル時ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四百五十一條 犯罪人又ハ逃走ノ囚徒及ヒ監視

違背シタル時ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス

第四百五十六條 前二條ノ罪ハ其刑期限内再ヒ犯シタル時ニ非サレハ再犯ヲ以テ論スルコトヲ得ス

第五節 私ニ軍用ノ銃砲彈藥ヲ製造シ及

ヒ所有スル罪

第四百五十七條 官命ヲ受ケス又ハ官許ヲ得スシテ陸海軍ノ用ニ供スル銃砲彈藥其他破裂質ノ物品ヲ製造シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス其之ヲ輸入シタル者亦同シ

前項ノ物品ヲ私ニ販賣シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第四百五十八條 前條ノ罪ヲ犯スト雖モ職工又ハ雇人ニシテ止タ正犯ノ使令ニ供シタル者ハ各本刑ニ照シ二等ヲ減ス

第二百五十九條 前二條ノ罪ヲ犯サントシテ未ダ

遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第六十條 第一百五十七條ニ記載シタル物品ヲ

私ニ所有シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰

金ニ處ス

第六十一條 第五十七條ニ記載シタル物品

ノ製造ニ供シタル器械ニシテ單ニ其用ニ供ス

可キ者ハ何人ノ所有ヲ問ハス之ヲ沒收ス

第六節 往來通信ヲ妨害スル罪

第六十二條 道路橋梁河溝港埠ヲ損壞シテ往

來ヲ妨害シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁

錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第六十三條 偽計又ハ威力ヲ以テ郵便ヲ妨害

シ若クハ之ヲ阻止シタル者ハ亦前條ニ同シ

第六十四條 電信ノ器械柱木ヲ損壞シ又ハ條

線ヲ切斷シテ電氣ヲ不通ニ致シタル者ハ三月

以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓

以下ノ罰金ヲ附加ス

若シ器械柱木條線ヲ損壞シテ電信ノ妨害ヲ爲

スト雖モ不通ニ至ラサル時ハ一等ヲ減ス

第六十五條 漁車ノ往來ヲ妨害スル爲メ鐵道

及ヒ其標識ヲ損壞シ其他危險ナル障礙ヲ爲シ

タル者ハ重懲役ニ處ス

第六十六條 船舶ノ往來ヲ妨害スル爲メ燈臺

浮標其他航海ノ安寧ヲ保護スル標識ヲ損壞シ

又ハ詐僞ノ標識ヲ點示シタル者ハ亦前條ニ同

第六十七條 前數條ニ記載シタル罪其事務ニ

關スル官吏及ヒ雇人職工自ラ犯シタル時ハ各

本刑ニ照シ一等ヲ加フ

第六十八條 第六十二條ノ罪ヲ犯シ因テ人

ヲ殺傷シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ重

キニ從テ處斷ス

第六十九條 第六十五條第六十六條ノ罪

ヲ犯シ因テ漁車ヲ顛覆シ又ハ船舶ヲ覆没シタ

ル時ハ無期徒刑ニ處シ人ヲ死ニ致シタル時ハ

死刑ニ處ス

第七十條 此節ニ記載シタル輕罪ヲ犯サント

シテ未ダ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ

處斷ス

第七節 人ノ住所ヲ侵スル罪

第七十一條 晝間故ナシ人ノ住居シタル邸宅

又ハ人ノ看守シタル建造物ニ入りタル者ハ十

一日以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス

若シ左ニ記載シタル所爲アル時ハ一等ヲ加フ

一門戶牆壁ヲ踰越損壞シ又ハ鎖鑰ヲ開キテ入

リタル時

二兇器其他犯罪ノ用ニ供ス可キ物品ヲ攜帶シ

テ入りタル時

三暴行ヲ爲シテ入りタル時

四二人以上ニテ入りタル時

第七十二條 夜間故ナシ人ノ住居シタル邸宅

又ハ人ノ看守シタル建造物ニ入りタル者ハ一

月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス

刑法 第二編 公益ニ關スル重罪輕罪

若シ前條ニ記載シタル加重ス可キ所爲アル時

ハ一等ヲ加フ

第七十三條 故ナシ皇居禁苑離宮行在所及ヒ

皇陵内ニ入りタル者ハ前二條ノ例ニ照シ各一

等ヲ加フ

第七十四條 官ノ封印ヲ破棄スル罪

第七十五條 官署ノ處分ニ因リ特別ニ家屋倉

庫其他ノ物件ニ施シタル封印ヲ破棄シタル者

ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス若シ看守

者自ラ犯シタル時ハ一等ヲ加フ

第七十六條 官ノ封印ヲ破棄シテ其物件ヲ盜

取シ又ハ毀壞シタル者ハ盜罪及ヒ毀壞ノ各本

條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第七十七條 看守者其懈怠ニ因リ封印ヲ破棄

シ又ハ其物件ヲ盜取毀壞スル犯人アルヲ覺

ラサル時ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第九節 公務ヲ行フヲ拒ム罪

第七十七條 陸海軍ノ將校タル者出兵ヲ要求

スル權アル官署ヨリ其要求ヲ受ケ故ナクシテ之ヲ肯セザル時ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第百七十八條 陸海軍ノ徵兵ニ編入セラル可キ者身體ヲ毀傷シテ疾病ヲ作爲シ其他詐僞ノ所爲ヲ以テ免役ヲ圖リタル時ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

若シ他人ニ囑託シ其氏名ヲ詐稱シ代テ徵募ニ應セシメタル者亦同シ其囑託ヲ受ケテ徵募ニ應シタル者ハ第二百三十一條ノ例ニ照シテ處斷ス

第百七十九條 醫師化學家其他職業ニ因リ官署ヨリ解剖分析又ハ鑑定ヲ命セラレタル者故ナクシテ之ヲ肯セザル時ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第百八十條 裁判所ヨリ證人トシテ證據ヲ陳述スルコトヲ命セラレタル者故ナクシテ之ヲ肯セ

サル時ハ亦前條ニ同シ

第百八十一條 傳染病流行ノ際又ハ傳染病ノ疑アル船舶入港スルニ當リ醫師其病患ヲ検査シ又ハ消滅ノ方法ヲ陳述スルコトヲ命セラレタル者故ナクシテ之ヲ肯セザル時ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

獸類傳染病流行ノ際獸醫此條ノ罪ヲ犯シタル時ハ一等ヲ減ス

第四章 信用ヲ害スル罪

第一節 貨幣ヲ偽造スル罪

第百八十二條 內國通用ノ金銀貨及ヒ紙幣ヲ偽造シテ行使シタル者ハ無期徒刑ニ處ス

若シ變造シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス

第百八十三條 內國ニ於テ通用スル外國ノ金銀貨ヲ偽造シテ行使シタル者ハ有期徒刑ニ處ス若シ變造シテ行使シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス

第百八十四條 官許ヲ得テ發行スル銀行ノ紙幣

ヲ偽造シ若クハ變造シテ行使シタル者ハ内外

國ノ區別ニ從ヒ前二條ノ例ニ照シテ處斷ス

第百八十五條 內國通用ノ銅貨ヲ偽造シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス

若シ變造シテ行使シタル者ハ一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス

第百八十六條 前數條ニ記載シタル貨幣ノ偽造變造已ニ成テ未タ行使セザル者ハ各本條ニ照シ一等ヲ減シ其未タ成ラサル者ハ二等ヲ減ス若シ偽造ノ器械ヲ豫備シテ未タ着手セザル者ハ各三等ヲ減ス

第百八十七條 貨幣ヲ偽造變造スルノ情ヲ知テ雇テ受ケタル職工ハ前數條ニ記載シタル犯人ノ受ク可キ刑ニ照シ各一等ヲ減ス

若シ職工ノ補助ヲ爲シテ雜役ニ供シタル者ハ職工ノ刑ニ照シ一等又ハ二等ヲ減ス

第百八十八條 貨幣ヲ偽造變造スルノ情ヲ知テ房屋ヲ給與シタル者ハ偽造變造ノ各本條ニ照

シ二等ヲ減ス

第百八十九條 偽造變造ノ貨幣ヲ內國ニ輸入シタル者ハ偽造變造ノ刑ニ同シ

第百九十條 偽造變造ノ情ヲ知テ其貨幣ヲ收受シ之ヲ行使シタル者ハ偽造變造シテ行使シタル者ノ刑ニ照シ各二等ヲ減ス

其未タ行使セザル者ハ各三等ヲ減ス

第百九十一條 前數條ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

第百九十二條 貨幣ヲ偽造變造シ及ヒ輸入收受シタル者未タ行使セザル前ニ於テ官ニ自首シタル時ハ本刑ニ免シ六月以上三年以下ノ監視ニ付ス

若シ職工雜役及ヒ房屋ヲ給與シタル者未タ行使セザル前ニ於テ自首シタル時ハ本刑ヲ免ス

第百九十三條 貨幣ヲ收受スルノ後ニ於テ偽造又ハ變造ナルコトヲ知リ之ヲ行使シタル者ハ其

價額二倍ノ罰金ニ處ス但其罰金ハ二圓以下ニ降スヲ得ス

第二節 官印ヲ偽造スル罪

第九十四條 御璽國璽ヲ偽造シ又ハ其偽璽ヲ使用シタル者ハ無期徒刑ニ處ス

第九十五條 各官署ノ印ヲ偽造シ又ハ其偽印ヲ使用シタル者ハ重懲役ニ處ス

第九十六條 產物商品等ニ押用スル官ノ記號印章ヲ偽造シ又ハ其偽印ヲ使用シタル者ハ輕懲役ニ處ス

書籍什物等ニ押用スル官ノ記號印章ヲ偽造シ又ハ其偽印ヲ使用シタル者ハ一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス

第九十七條 御璽國璽官印記號印章ノ影蹟ヲ盜用シタル者ハ前數條ニ記載シタル偽造ノ刑ニ照シ各一等ヲ減ス

若シ監守者自ラ犯シタル時ハ偽造ノ刑ニ同シ
第九十八條 官ヨリ發行スル各種ノ印紙界紙

及ヒ郵便切手ヲ偽造變造シ又ハ其情ヲ知テ之ヲ使用シタル者ハ一年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第九十九條 已ニ貼用シタル各種ノ印紙及ヒ郵便切手ヲ再ヒ貼用シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百條 此節ニ記載シタル輕罪ヲ犯サントシテ未ダ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第一百一條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

第三節 官ノ文書ヲ偽造スル罪

第一百二條 詔書ヲ偽造シ又ハ増減變換シタル者ハ無期徒刑ニ處ス

其詔書ヲ毀棄シタル者亦同シ

第一百三條 官ノ文書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス

其官ノ文書ヲ毀棄シタル者亦同シ

第一百四條 公債證書地券其他官吏ノ公證シタル文書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス

若シ無記名ノ公債證書ニ係ル時ハ一等ヲ加フ

第一百五條 官吏其管掌ニ係ル文書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ前二條ノ例ニ照シ各一等ヲ加フ

其文書ヲ毀棄シタル者亦同シ

第一百六條 官ノ文書ヲ偽造スルニ因テ官印ヲ偽造シ又ハ盜用シタル者ハ偽造官印ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第一百七條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕輕ニ因テ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

第四節 私印私書ヲ偽造スル罪

第一百八條 他人ノ私印ヲ偽造シテ使用シタル者ハ六月以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以

上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

若シ他人ノ印影ヲ盜用シタル者ハ一等ヲ減ス

第一百九條 爲替手形其他裏書ヲ以テ賣買ス可キ證書若シハ金額ト交換ス可キ約定手形ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス

其手形證書ニ詐偽ノ裏書ヲ爲シテ行使シタル者亦同シ

第一百十條 賣買貸借贈遺交換其他權利義務ニ關スル證書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

其餘ノ私書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第一百十一條 此節ニ記載シタル輕罪ヲ犯サントシテ未ダ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第二百十二條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

第五節 免狀鑑札及ヒ疾病證書ヲ偽造スル罪

第二百十三條 官ノ免狀又ハ鑑札ヲ偽造シテ行使シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス但官印ヲ偽造シ又ハ盗用シタル時ハ偽造官印ノ各本條ニ照シテ處斷ス

第二百十四條 屬籍身分氏名ヲ詐稱シ其他詐僞ノ所爲ヲ以テ免狀鑑札ヲ受ケタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

官吏情ヲ知テ其免狀鑑札ヲ下付シタル者ハ一等ヲ加フ

第二百十五條 公務ヲ免カル可キ爲メ醫師ノ氏名ヲ用ヒ疾病ノ證書ヲ偽造シテ行使シタル者

ハ自己ノ爲メニシ他人ノ爲メニスルヲ分タス一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

醫師囑託ヲ受ケテ其詐僞ノ證書ヲ造リタル者ハ一等ヲ加フ

第二百十六條 陸海軍ノ徵兵ヲ免カル可キ爲メ疾病ノ證書ヲ偽造シテ行使シタル者及ヒ囑託ヲ受ケテ其詐僞ノ證書ヲ造リタル醫師ハ前條ノ例ニ照シ各一等ヲ加フ

第二百十七條 免狀鑑札及ヒ疾病ノ證書ヲ増減變換シテ行使シタル者ハ亦偽造ノ刑ニ同シ

第六節 偽證ノ罪

第二百十八條 刑事ニ關スル證人トシテ裁判所ニ呼出サレタル者被告人ヲ曲庇スル爲メ事實ヲ掩蔽シテ偽證ヲ爲シタル時ハ左ノ例ニ照シテ處斷ス

一重罪ヲ曲庇スル爲メ偽證シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓

以下ノ罰金ヲ附加ス

二輕罪ヲ曲庇スル爲メ偽證シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓

以下ノ罰金ヲ附加ス

三違警罪ヲ曲庇スル爲メ偽證シタル者ハ違警罪ノ本條ニ依テ處斷ス

第二百十九條 偽證ノ爲メ被告人正當ノ刑ヲ免カレタル時ハ偽證者ノ刑前條ノ例ニ照シ各一等ヲ加フ

第二百二十條 被告人ヲ陷害スル爲メ偽證ヲ爲シタル者ハ左ノ例ニ照シテ處斷ス

一重罪ニ陷ラシムル爲メ偽證シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

二輕罪ニ陷ラシムル爲メ偽證シタル者ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

三違警罪ニ陷ラシムル爲メ偽證シタル者ハ一

刑法 第二編 公益ニ關スル重罪輕罪

月以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百二十一條 偽證ノ爲メ被告人刑ニ處セラレタル後ニ於テ偽證ノ罪發覺シタル時ハ偽證者ヲ其刑ニ反坐ス若シ反坐ノ刑前條ニ記載シタル偽證ノ刑ヨリ輕キ時ハ前條ノ例ニ照シテ處斷ス

其刑期限内ニ於テ偽證ノ罪發覺シタル時ハ現ニ經過シタル日數ニ照シテ反坐ノ刑期ヲ減スルコトヲ得但減シテ前條偽證ノ刑ヨリ降スコトヲ得ス

第二百二十二條 偽證ノ爲メ被告人死刑ニ處セラレタル時ハ反坐ノ刑一等ヲ減ス其未ダ刑ヲ執行セサル前ニ於テ發覺シタル時ハ二等ヲ減ス

若シ被告人ヲ死ニ陷ル、ノ目的ヲ以テ偽證ヲ爲シタル時ハ死刑ニ反坐ス其未ダ刑ヲ執行セサル前ニ於テ發覺シタル時ハ一等ヲ減ス

第二百二十三條 民事商事又ハ行政裁判ニ關シ

テ偽證ヲ爲シタル者ハ一月以上一年以下ノ重
禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加
ス

第二百二十四條 鑑定又ハ通事ノ爲メ裁判所ニ

呼出サレタル者詐偽ノ陳述ヲ爲シタル時ハ前
數條ニ記載シタル偽證ノ例ニ照シテ處斷ス
第二百二十五條 賄賂其他ノ方法ヲ以テ人ニ囑
託シテ偽證又ハ詐偽ノ鑑定通事ヲ爲サシメタ
ル者ハ亦偽證ノ例ニ同シ

第二百二十六條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シタ
ル者其事件ノ裁判宣告ニ至ラサル前ニ於テ自
首シタル時ハ本刑ヲ免ス

第七節 度量衡ヲ偽造スル罪

第二百二十七條 度量衡ヲ偽造シ又ハ變造シテ
販賣シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ
處シ十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス但官
ノ記號印章ヲ偽造シ又ハ盜用シタル時ハ偽造

第十五日以上二月以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上
二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
第九節 公選ノ投票ヲ偽造スル罪
第二百三十三條 公選ノ投票ヲ偽造シ又ハ其數
ヲ増減シタル者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮
ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
第二百三十四條 賄賂ヲ以テ投票ヲ爲サシメ又
ハ賄賂ヲ受ケテ投票ヲ爲シタル者ハ二月以上
二年以下ノ輕禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下
ノ罰金ヲ附加ス
第二百三十五條 投票ヲ検査シ及ヒ其數ヲ計算
スル者其投票ヲ偽造シ又ハ増減シタル時ハ六
月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ四圓以上四十
圓以下ノ罰金ヲ附加ス
第二百三十六條 調書ヲ造リ投票ノ結局ヲ報告
スル者其數ヲ増減シ其他詐偽ノ所爲アル時ハ
一年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五
十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

官印ノ各本條ニ照シ重キコ從テ處斷ス

第二百二十八條 偽造變造ノ情ヲ知テ其度量衡
ヲ販賣シタル者ハ前條ノ刑ニ一等ヲ減ス

第二百二十九條 商賈農工定規ヲ増減シタル度
量衡ヲ所有シタル者ハ一月以上三月以下ノ重
禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加
ス

若シ其度量衡ヲ使用シテ利ヲ得タル者ハ詐欺
取財ヲ以テ論ス

第二百三十條 人ノ囑託ヲ受ケテ度量衡ヲ偽造
シ又ハ變造シタル者ハ其囑託シタル犯人ノ刑
ニ照シ各一等ヲ減ス

第八節 身分ヲ詐稱スル罪

第二百三十一條 官署ニ對シ文書又ハ言語ヲ以
テ其屬籍身分氏名年齢職業ヲ詐稱シタル者ハ
二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百三十二條 官職位階ヲ詐稱シ又ハ官ノ服
飾徽章若シハ内外國ノ勳章ヲ濫用シタル者ハ

第五章 健康ヲ害スル罪

第一節 阿片烟ニ關スル罪

第二百三十七條 阿片烟ヲ輸入シ及ヒ製造シ又
ハ之ヲ販賣シタル者ハ有期徒刑ニ處ス

第二百三十八條 阿片烟ヲ吸食スルノ器具ヲ輸
入シ及ヒ製造シ又ハ之ヲ販賣シタル者ハ輕懲
役ニ處ス

第二百三十九條 稅關官吏情ヲ知テ阿片烟及ヒ
其器具ヲ輸入セシメタル者ハ前二條ノ刑ニ照
シ各一等ヲ加フ

第二百四十條 阿片烟ヲ吸食スル爲メ房屋ヲ給
與シテ利ヲ圖ル者ハ輕懲役ニ處ス人ヲ引誘シ
テ阿片烟ヲ吸食セシメタル者亦同シ

第二百四十一條 阿片烟ヲ吸食シタル者ハ二年
以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス

第二百四十二條 阿片烟及ヒ吸食ノ器具ヲ所有
シ又ハ受寄シタル者ハ一月以上一年以下ノ重
禁錮ニ處ス

第二節 飲料ノ淨水ヲ汚穢スル罪

第二百四十三條 人ノ飲料ニ供スル淨水ヲ汚穢シ因テ之ヲ用フルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ十一日以上一月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上五圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百四十四條 人ノ健康ヲ害ス可キ物品ヲ用ヒテ水質ヲ變シ又ハ腐敗セシメタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百四十五條 前條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ疾病又ハ死ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第三節 傳染病豫防規則ニ關スル罪

第二百四十六條 傳染病豫防ノ爲メ設ケタル規則ニ違背シテ入港ノ船舶ヨリ上陸シ又ハ物品ヲ陸地ニ運搬シタル者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百四十七條 船長自ラ前條ノ罪ヲ犯シ又ハ人ノ犯スコトヲ知テ制ヲサル者ハ前條ノ刑ニ一等ヲ加フ

第二百四十八條 傳染病流行ノ際豫防規則ニ違背シテ流行地方ヨリ他處ニ出テタル者ハ十五日以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百四十九條 獸類ノ傳染病流行ノ際豫防規則ニ違背シテ獸類ヲ他處ニ出シタル者ハ十一日以上二月以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四節 危害品及ヒ健康ヲ害ス可キ物品製造ノ規則ニ關スル罪

第二百五十條 官許ヲ得スシテ危害ヲ生ス可キ物品ノ製造所ヲ創設シタル者ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス
若シ健康ヲ害ス可キ物品ノ製造所ヲ創設シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百五十一條 官許ヲ得テ前條ニ記載シタル製造所ヲ創設スト雖モ危害ヲ豫防シ健康ヲ保護スル規則ニ違背シタル者ハ前條ノ例ニ照シ各一等ヲ減ス

第二百五十二條 前二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ疾病死傷ニ致シタル時ハ過失殺傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第五節 健康ヲ害ス可キ飲食物及ヒ藥劑ヲ販賣スル罪

第二百五十三條 人ノ健康ヲ害ス可キ物品ヲ飲食物ニ混和シテ販賣シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百五十四條 規則ニ違背シテ毒藥劇藥ヲ販賣シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス
第二百五十五條 前二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ疾病又ハ死ニ致シタル者ハ過失殺傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第六節 私ニ醫業ヲ爲ス罪

刑法 第二編 公益ニ關スル重罪輕罪

第二百五十六條 官許ヲ得スシテ醫業ヲ爲シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百五十七條 前條ノ犯入治療ノ方法ヲ誤リ因テ人ヲ死傷ニ致シタル時ハ過失殺傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第六章 風俗ヲ害スル罪

第二百五十八條 公然猥褻ノ所行ヲ爲シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百五十九條 風俗ヲ害スル冊子圖畫其他猥褻ノ物品ヲ公然陳列シ又ハ販賣シタル者ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百六十條 賭場ヲ開張シテ利ヲ圖リ又ハ博徒ヲ招結シタル者ハ三月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百六十一條 財物ヲ賭シテ現ニ博奕ヲ爲シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス其情ヲ知テ房屋ヲ給與シタル者亦同シ但飲食物ヲ賭スル

者ハ此附ニ在ラズ賭博ノ器具財物其現場ニ在
ル者ハ之ヲ没収ス

第二百六十二條 財物ヲ醜集シ富籤ヲ以テ利益
ヲ僥倖スルノ業ヲ興行シタル者ハ一月以上六
月以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ
罰金ヲ附加ス

第二百六十三條 神祠佛堂墓所其他禮拜所ニ對
シ公然不敬ノ所爲アル者ハ二十圓以上二十圓以
下ノ罰金ニ處ス

若シ説教又ハ禮拜ヲ妨害シタル者ハ四圓以上
四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第七章 死屍ヲ毀棄シ及ヒ墳墓ヲ發掘ス
ル罪

第二百六十四條 埋葬ス可キ死屍ヲ毀棄シタル
者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以
上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
第二百六十五條 墳墓ヲ發掘シテ棺槨又ハ死屍
ヲ見ハシタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮

ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
因テ死屍ヲ毀棄シタル者ハ三月以上三年以下
ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ
附加ス

第二百六十六條 此章ニ記載シタル罪ヲ犯サン
トシテ未ダ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シ
テ處斷ス

第八章 商業及ヒ農工ノ業ヲ妨害スル罪
第二百六十七條 偽計又ハ威力ヲ以テ穀類其他
衆人ノ需用ニ缺ク可カラサル食用物ノ賣買ヲ
妨害シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ
處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
前項ニ記載シタル以外ノ品物ノ賣買ヲ妨害シ
タル者ハ一等ニ減ス

第二百六十八條 偽計又ハ威力ヲ以テ糶賣又ハ
入札ヲ妨害シタル者ハ十五日以上三月以下ノ
重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附
加ス

第二百六十九條 偽計又ハ威力ヲ以テ農工ノ業
ヲ妨害シタル者ハ亦前條ニ同シ

第二百七十條 農工ノ雇人其雇賃ヲ増サシメ又
ハ農工業ノ景況ヲ變セシムル爲メ雇主及ヒ他
ノ雇人ニ對シ偽計威力ヲ以テ妨害ヲ爲シタル
者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以
上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百七十一條 雇主其雇賃ヲ減シ又ハ農工業
ノ景況ヲ變スル爲メ雇人及ヒ他ノ雇主ニ對シ
偽計威力ヲ以テ妨害ヲ爲シタル者ハ亦前條ニ
同シ

第二百七十二條 虛偽ノ風説ヲ流布シテ穀類其
他衆人需用物品ノ價直ヲ昂低セシメタル者ハ
十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九章 官吏瀆職ノ罪
第一節 官吏公益ヲ害スル罪

第二百七十三條 官吏其管掌ニ係ル法律規則ヲ
公布施行セス又ハ他ノ官吏ノ公布施行ヲ妨害

刑法 第二編 公益ニ關スル重罪輕罪

シタル者ハ二月以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ
十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
第二百七十四條 兵隊ヲ要求シ及ヒ之ヲ使用ス
ル權アル官吏方地ノ騷擾其他兵權ヲ以テ鎮撫
ス可キ時ニ當リ其處分ヲ爲サ、ル者ハ三月以
上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ二十圓以上百圓以
下ノ罰金ヲ附加ス

第二節 官吏人民ニ對スル罪

第二百七十六條 官吏擅ニ威權ヲ用ヒ人ヲシテ
其權利ヲキ事ヲ行ハシメ又ハ其爲ス可キ權利
ヲ妨害シタル者ハ十一月以上二月以下ノ輕禁
錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百七十七條 人ノ身體財產ヲ妨害スルノ犯
人アルニ當リ豫審判事檢察官更其報告ヲ
受ケテ速ニ保護ノ處分ヲ爲サ、ル者ハ十五日

以上三月以下ノ輕禁錮ニ處シ二十圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百七十八條 逮捕官吏法律ニ定メタル程式規則ヲ遵守セズシテ人ヲ逮捕シ又ハ不正ニ人ヲ監禁シタル者ハ十五日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス但監禁日數十日ヲ過クル毎ニ一等ヲ加フ

第二百七十九條 司獄官吏程式規則ヲ遵守セズシテ囚人ヲ監禁シ若クハ囚人ヲ出獄セシム可キノ時ニ至リ之ヲ放免セサル者ハ亦前條ノ例ニ同シ

第二百八十條 前二條ニ記載シタル官吏又ハ該送者囚人ニ對シ飲食衣服ヲ屏去シ其他苛刻ノ所爲ヲ施シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

因テ囚人ヲ死傷ニ致シタル時ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ一等ヲ加ヘ重キニ從テ處斷ス

第二百八十一條 水火震災ノ際官吏囚人ノ監禁ヲ解シテ怠リ因テ死傷ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ一等ヲ加フ

創傷ノ各本條ニ照シ一等ヲ加フ

第二百八十二條 裁判官檢察事及ヒ警察官吏被告人ニ對シ罪狀ヲ陳述セシムル爲メ暴行ヲ加ヘ又ハ陵虐ノ所爲アル者ハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

因テ被告人ヲ死傷ニ致シタル時ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ一等ヲ加ヘ重キニ從テ處斷ス

第二百八十三條 裁判官檢察官故ナクシテ刑事ノ訴ヲ受理セス又ハ遷延シテ審理セサル者ハ十五日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

其民事ノ訴ニ係ル者亦同シ

第二百八十四條 官吏人ノ囑託ヲ受テ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ聽許シタル者ハ一年以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

因テ不正ノ處分ヲ爲シタル時ハ一等ヲ加フ

第二百八十五條 裁判官民事ノ裁判ニ關シテ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ聽許シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

因テ不正ノ裁判ヲ爲シタル時ハ一等ヲ加フ

第二百八十六條 裁判官檢察官警察官吏刑事ノ裁判ニ關シテ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ聽許シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

因テ被告人ヲ曲庇シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

其被告人ヲ陷害シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス若シ枉斷シタル所ノ刑此刑ヨリ重キシテ反坐ス

時ハ第二百二十一條第二百二十二條ノ例ニ照シテ反坐ス

刑法 第二編 公益ニ關スル重罪輕罪

第二百八十七條 裁判官檢察官警察官吏賄賂ヲ收受聽許セスト雖モ情ニ徇カヒ又ハ怨ヲ挾サミ被告人ヲ曲庇陷害シタル者ハ亦前條ノ例ニ同シ

第二百八十八條 前數條ニ記載シタル賄賂已ニ收受シタル者ハ之ヲ沒收シ費用シタル者ハ其價ヲ追徵ス

第三節 官吏財産ニ對スル罪

第二百八十九條 官吏自ラ監守スル所ノ金穀物件ヲ竊取シタル者ハ輕懲役ニ處ス

因テ官ノ文書簿冊ヲ増減變換シ又ハ毀棄シタル時ハ第二百五條ノ例ニ照シテ處斷ス

第二百九十條 租稅其他諸般ノ入額ヲ徵收スル官吏正數外ノ金穀ヲ徵收シタル者ハ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百九十一條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視

コ付ス

第三編 身體財產ニ對スル重罪輕罪

第一章 身體ニ對スル罪

第一節 謀殺故殺ノ罪

第二百九十二條 豫メ謀テ人ヲ殺シタル者ハ謀殺ノ罪ト爲シ死刑ニ處ス

第二百九十三條 毒物ヲ施用シテ人ヲ殺シタル者ハ謀殺ヲ以テ論シ死刑ニ處ス

第二百九十四條 故意ヲ以テ人ヲ殺シタル者ハ故殺ノ罪ト爲シ無期徒刑ニ處ス

第二百九十五條 支解折割其他慘刻ノ所爲ヲ以テ人ヲ故殺シタル者ハ死刑ニ處ス

第二百九十六條 重罪輕罪ヲ犯スニ便利ナル爲メ又ハ己ニ犯シテ其罪ヲ免カル、爲メ人ヲ故殺シタル者ハ死刑ニ處ス

第二百九十七條 人ヲ殺スノ意ニ出テ詐稱誘導シテ危害ニ陷レ死ニ致シタル者ハ故殺ヲ以テ論シ其豫メ謀ル者ハ謀殺ヲ以テ論ス

第二百九十八條 謀殺故殺ヲ行ヒ誤テ他人ヲ殺シタル者ハ仍ホ謀殺ヲ以テ論ス

第二節 毆打創傷ノ罪

第二百九十九條 人ヲ毆打創傷シ因テ死ニ致シタル者ハ重懲役ニ處ス

第三百條 人ヲ毆打創傷シ其兩目ヲ瞎シ兩耳ヲ聾シ又ハ兩肢ヲ折リ及ヒ舌ヲ斷テ陰陽ヲ毀傷シ若クハ知覺精神ヲ喪失セシメ篤疾ニ致シタル者ハ輕懲役ニ處ス

其一目ヲ瞎シ一耳ヲ聾シ又ハ一肢ヲ折リ其他身體ヲ殘廢シ癡疾ニ致シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス

第三百一條 人ヲ毆打創傷シ二十日以上ノ時間疾病ニ罹リ又ハ職業ヲ營ムコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス

其疾病休業ノ時間二十日ニ至ラサル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス

第三百七條 健康ヲ害ス可キ物品ヲ施用シテ人ヲ疾苦セシメタル者ハ豫メ謀テ毆打創傷スルノ例ニ照シテ處斷ス

第三百八條 人ヲ殺スノ意ニ非スト雖モ詐稱誘導シテ危害ニ陷レ因テ疾病死傷ニ致シタル者ハ毆打創傷ヲ以テ論ス

第三百九條 自己ノ身體ニ暴行ヲ受クルニ因リ直チニ怒ヲ發シ暴行人ヲ殺傷シタル者ハ其罪ヲ宥恕ス但不正ノ所爲ニ因リ自ラ暴行ヲ招キタル者ハ此限ニ在ラス

第三百十條 毆打シテ互ニ創傷シ其手下スノ先後ヲ知ルコト能ハサル者ハ各其罪ヲ宥恕スルコト得

第三百十一條 本夫其妻、姦通ヲ覺知シ姦所ニ於テ直チニ姦夫又ハ姦婦ヲ殺傷シタル者ハ其罪ヲ宥恕ス但本夫先ニ姦通ヲ縱容シタル者ハ

刑ニ照シ各一等ヲ加フ

第三百三條 重罪輕罪ヲ犯スニ便利ナル爲メ又ハ己ニ犯シテ其罪ヲ免カル、爲メ人ヲ毆打創傷シタル者ハ亦前條ノ例ニ同シ

第三百四條 毆打ニ因リ誤テ他人ヲ創傷シタル者ハ仍ホ毆打創傷ノ本刑ヲ科ス

第三百五條 二人以上共ニ人ヲ毆打創傷シタル者ハ現ニ手下ニ傷ヲ成スノ輕重ニ從テ各自ニ其刑ヲ科ス若シ共毆シテ傷ヲ成スノ輕重ヲ知ルコト能ハサル時ハ其重傷ノ刑ニ照シ一等ヲ減ス但教唆者ハ減等ノ限ニ在ラス

第三百六條 二人以上共ニ人ヲ毆打スルニ當リ自ラ人ヲ傷セスト雖モ幫助シテ傷ヲ成サシメタル者ハ現ニ傷ヲ成シタル者ノ刑ニ一等ヲ減

刑ニ照シ各一等ヲ加フ

第三百三條 重罪輕罪ヲ犯スニ便利ナル爲メ又ハ己ニ犯シテ其罪ヲ免カル、爲メ人ヲ毆打創傷シタル者ハ亦前條ノ例ニ同シ

第三百四條 毆打ニ因リ誤テ他人ヲ創傷シタル者ハ仍ホ毆打創傷ノ本刑ヲ科ス

第三百五條 二人以上共ニ人ヲ毆打創傷シタル者ハ現ニ手下ニ傷ヲ成スノ輕重ニ從テ各自ニ其刑ヲ科ス若シ共毆シテ傷ヲ成スノ輕重ヲ知ルコト能ハサル時ハ其重傷ノ刑ニ照シ一等ヲ減ス但教唆者ハ減等ノ限ニ在ラス

此限ニ在ラス

第三百十二條 晝間故ナク人ノ住居シタル邸宅

ニ入り若クハ門戸牆壁ヲ踰越損壞セントスル者ヲ防止スル爲メ之ヲ殺傷シタル者ハ其罪ヲ宥恕ス

第三百十三條 前數條ニ記載シタル宥恕ス可キ罪ハ各本刑ニ照シ二等又ハ三等ヲ減ス

第三百十四條 身體生命ヲ正當ニ防衛シ已ムコトヲ得サルニ出テ暴行人ヲ殺傷シタル者ハ自己ノ爲メニシ他人ノ爲メニスルヲ分ク其罪ヲ論セズ但不正ノ所爲ニ因リ自ラ暴行ヲ招キタル者ハ此限ニ在ラス

第三百十五條 左ノ諸件ニ於テ已ムコトヲ得サルニ出テ人ヲ殺傷シタル者ハ其罪ヲ論セズ一財産ニ對シ放火其他暴行ヲ爲ス者ヲ防止スルニ出タル時
二盜犯ヲ防止シ又ハ盜賊ヲ取還スルニ出タル時

三夜間故ナク人ノ住居シタル邸宅ニ入り若クハ門戸牆壁ヲ踰越損壞スル者ヲ防止スルニ出タル時

第三百十六條 身體財産ヲ防衛スルニ出ルト雖モ已ムコトヲ得サルニ非スニテ害ヲ暴行人ニ加ヘ又ハ危害已ニ去リタル後ニ於テ勢ニ乘シ仍ホ害ヲ暴行人ニ加ヘタル者ハ不論罪ノ限ニ在ラス但情狀ニ因リ第三百十三條ノ例ニ照シ其罪ヲ宥恕スルコトヲ得

第四百節 過失殺傷ノ罪
第三百十七條 疎虞懈怠又ハ規則慣習ヲ遵守セズ過失ニ因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百十八條 過失ニ因テ人ヲ創傷シ癱瘓疾ニ致シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス
第三百十九條 過失ニ因テ人ヲ創傷シ疾病休業ニ至ラシメタル者ハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第五節 自殺ニ關スル罪

第三百二十條 人ヲ教唆シテ自殺セシメ又ハ囑託ヲ受ケテ自殺人ノ爲メニ手ヲ下シタル者ハ六月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
其他自殺ノ補助ヲ爲シタル者ハ一等ヲ減ス
第三百二十一條 自己ノ利ヲ圖リ人ヲ教唆シテ自殺セシメタル者ハ重懲役ニ處ス

第六節 擅ニ人ヲ逮捕監減スル罪

第三百二十二條 擅ニ人ヲ逮捕シ又ハ私家ニ監禁シタル者ハ十一日以上二月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス但監禁日數十日ヲ過シル毎ニ一等ヲ加フ

第三百二十三條 擅ニ人ヲ監禁制縛シテ毆打拷責シ又ハ飲食衣服ヲ屏去シ其他苛刻ノ所爲ヲ施シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
第三百二十四條 前條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ疾病

刑法 第三編 身體財産ニ對スル罪 輕罪

死傷ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第三百二十五條 擅ニ人ヲ監禁シ水火震災ノ際其監禁ヲ解クコトヲ怠テ因テ死傷ニ致シタル者ニ亦前條ノ例ニ同シ
第七節 脅迫ノ罪

第三百二十六條 人ヲ殺サント脅迫シ又ハ人ノ住居シタル家屋ニ放火セント脅迫シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三百二十七條 兇器ヲ持シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ各一等ヲ加フ

第三百二十八條 親屬ニ害ヲ加フ可キ事ヲ以テ脅迫シタル者ハ亦前二條ノ例ニ同シ

第三百二十九條 此節ニ記載シタル罪ハ脅迫ヲ

受ケタル者又ハ其親屬ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論

第八節 墮胎ノ罪

第三百三十條 懷胎ノ婦女藥物其他ノ方法ヲ以

テ墮胎シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮

ニ處ス

第三百三十一條 藥物其他ノ方法ヲ以テ墮胎セ

シメタル者ニ亦前條ニ同シ因テ婦女ヲ死ニ致

シタル者ハ一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス

第三百三十二條 醫師穩婆又ハ藥商前條ノ罪ヲ

犯シタル者ハ各一等ヲ加フ

第三百三十三條 懷胎ノ婦女ヲ威逼シ又ハ誑騙

シテ墮胎セシメタル者ハ一年以上四年以下ノ

重禁錮ニ處ス

第三百三十四條 懷胎ノ婦女ナルヲ知テ毆打

其他ノ行ヲ加ヘ因テ墮胎ニ至ラシメタル者ハ

一年以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス其墮胎セシ

ムルノ意ニ出タル者ハ輕懲役ニ處ス

第三百三十五條 前二條ノ罪ヲ犯シ因テ婦女ヲ

廢篤疾又ハ死ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各本

第九節 幼者又ハ老疾者ヲ遺棄スル罪

第三百三十六條 八歳ニ滿サル幼者ヲ遺棄シシ

ル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス

自ラ生活スルヲ能ハサル老若疾病者ヲ遺棄シ

タル者亦同シ

第三百三十七條 八歳ニ滿サル幼者又ハ老疾者

ヲ寥閱無人ノ地ニ遺棄シタル者ハ四月以上四

年以下ノ重禁錮ニ處ス

第三百三十八條 給料ヲ得テ人ノ寄託ヲ受ケ保

養ス可キ者前二條ノ罪ヲ犯シタル時ハ各一等

ヲ加フ

第三百三十九條 幼者老疾者ヲ遺棄シ因テ癡疾

ニ致シタル者ハ輕懲役ニ處シ篤疾ニ致シタル

者ハ重懲役ニ處シ死ニ致シタル者ハ有期徒刑

ニ處ス

第三百四十條 自己ノ所有地又ハ看守ス可キ地

内ニ遺棄セラレタル幼者老疾者アルヲ知テ

之ヲ扶助セズ又ハ官署ニ申告セサル者ハ十五

日以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス

若シ疾病ニ罹リ昏倒スル者アルヲ知テ扶助

セズ又ハ申告セサル者亦同シ

第十節 幼者ヲ略取誘拐スル罪

第三百四十一條 十二歳ニ滿サル幼者ヲ略取シ

又ハ誘拐シテ自ラ藏匿シ若クハ他人ニ交付シ

タル者ハ一年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ十

圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三百四十二條 十二歳以上二十歳ニ滿サル幼

者ヲ略取シテ自ラ藏匿シ若クハ他人ニ交付シ

タル者ハ一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ五

圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス其誘拐シテ

自ラ藏匿シ若クハ他人ニ交付シタル者ハ六月

以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓

刑法 第三編 身體財產ニ對スル重罪暨罪

以下ノ罰金ヲ附加ス

第三百四十三條 略取誘拐シタル幼者ナルヲ知

テ自己ノ家屬僕婢トナシ又ハ其他ノ名稱ヲ

以テ之ヲ收受シタル者ハ前二條ノ例ニ照シ各

一等ヲ減ス

第三百四十四條 前數條ニ記載シタル罪ハ被害

者又ハ其親屬ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス但略取

誘拐セラレタル幼者式ニ從テ婚姻ヲ爲シタル

時ハ告訴ノ效ナシ

第三百四十五條 二十歳ニ滿サル幼者ヲ略取誘

拐シテ外國人ニ交付シタル者ハ輕懲役ニ處ス

第十一節 猥褻姦淫重婚ノ罪

第三百四十六條 十二歳ニ滿サル男女ニ對シ猥

褻ノ所行ヲ爲シ又ハ十二歳以上ノ男女ニ對シ

暴行脅迫ヲ以テ猥褻ノ所行ヲ爲シタル者ハ一

月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十

圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三百四十七條 十二歳ニ滿サル男女ニ對シ暴

四十一

行脅迫ヲ以テ猥褻ノ所行ヲ爲シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三百四十八條 十二歳以上ノ婦女ヲ強姦シタル者ハ輕懲役ニ處ス

藥酒等ヲ用ヒ人ヲ昏睡セシメ又ハ精神ヲ錯亂セシメテ姦淫シタル者ハ強姦ヲ以テ論ス

第三百四十九條 十二歳ニ滿サル幼女ヲ姦淫シタル者ハ輕懲役ニ處ス若シ強姦シタル者ハ重懲役ニ處ス

第三百五十條 前數條ニ記載シタル罪ハ被害者又ハ其親屬ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第三百五十一條 前數條ニ記載シタル罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス但強姦ニ因テ癡篤疾ニ致シタル者ハ有期徒刑ニ處シ死ニ致シタル者ハ無期徒刑ニ處ス

第三百五十二條 十六歳ニ滿サル男女ノ淫行ヲ

勸誘シテ娯合シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三百五十三條 有夫ノ婦姦通シタル者ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス其相姦スル者亦同シ

此條ノ罪ハ本夫ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス但本夫先ニ姦通ヲ縱容シタル者ハ告訴ノ效ナシ

第三百五十四條 配偶者アル者重テ婚姻ヲ爲シタル時ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第十二節 誣告及ヒ誹毀ノ罪

第三百五十五條 不實ノ事ヲ以テ人ヲ誣告シタル者ハ第二百二十條ニ記載シタル偽證ノ例ニ照シテ處斷ス

第三百五十六條 誣告ヲ爲スト雖モ被告人ノ推問ヲ始メサル前ニ於テ誣告者自首シタル時ハ本刑ヲ免ス

第三百五十七條 誣告ニ因テ被告人刑ニ處セラレタル時ハ第二百二十一條第二百二十二條ニ記載シタル例ニ照シテ處斷ス

第三百五十八條 惡事醜行ヲ摘發シテ人ヲ誹毀シタル者ハ事實ノ有無ヲ問ハズ左ノ例ニ照シテ處斷ス

一 公然ノ演說ヲ以テ人ヲ誹毀シタル者ハ十一日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

二 書類畫圖ヲ公布シ又ハ雜劇偶像ヲ作爲シテ人ヲ誹毀シタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三百五十九條 死者ヲ誹毀シタル者ハ誣罔ニ出タルニ非ザレハ前條ノ例ニ照シテ處斷スルコトヲ得ス

第三百六十條 醫師藥商穩婆又ハ代言人辯護人代書人若シハ神官僧侶其身分職業ニ於テ委託

刑法 第三編 身體財產ニ對スル重罪輕罪

ヲ受ケタル事ニ因リ知得タル陰私ヲ漏告シタル者ハ誹毀ヲ以テ論シ十一日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス但裁判所ノ呼出ヲ受ケテ事實ヲ陳述スル者ハ此限ニ在ラス

第三百六十一條 此節ニ記載シタル誹毀ノ罪ハ被害者又ハ死者ノ親屬ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第十三節 祖父母父母ニ對スル罪

第三百六十二條 子孫其祖父母父母ヲ謀殺故殺シタル者ハ死刑ニ處ス

其自殺ニ關スル罪ハ凡人ノ刑ニ照シ二等ヲ加フ

第三百六十三條 子孫其祖父母父母ニ對シ毆打創傷ノ罪其他監禁脅迫遺棄誣告誹毀ノ罪ニ犯シタル者ハ各本條ニ記載シタル凡人ノ刑ニ照シ二等ヲ加フ但癡疾ニ致シタル者ハ有期徒刑ニ處シ篤疾ニ致シタル者ハ無期徒刑ニ處シ死

ニ致シタル者ハ死刑ニ處ス

第三百六十四條 子孫其祖父母父母ニ對シ衣食ヲ供給セズ其他必要ナル奉養ヲ缺キタル者ハ

十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

因テ疾病又ハ死ニ致シタル者ハ亦前條ノ例ニ同シ

第三百六十五條 祖父母父母ニ對シタル殺傷ノ罪ハ特別ノ宥恕及ヒ不論罪ノ例ヲ用フルヲ得ス但其犯ス時知ラサル者ハ此限ニ在ラス

第二章 財産ニ對スル罪

第一節 竊盜ノ罪

第三百六十六條 人ノ所有物ヲ竊取シタル者ハ竊盜ノ罪ト爲シ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處ス

第三百六十七條 水火震災其他ノ變ニ乘シテ竊盜ヲ犯シタル者ハ六月以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス

四十四

第三百六十八條 門戶牆壁ヲ踰越損壞シ若クハ鎖鑰ヲ開キ邸宅倉庫ニ入り竊盜ヲ犯シタル者ハ亦前條ニ同シ

第三百六十九條 二人以上共ニ前三條ノ罪ヲ犯シタル者ハ各一等ヲ加フ

第三百七十條 兇器ヲ携帯シテ人ノ住居シタル邸宅ニ入り竊盜ヲ犯シタル者ハ輕懲役ニ處ス

第三百七十一條 自己ノ所有物ト雖モ典物トシテ他人ニ交付シ又ハ官署ノ命令ニ因リ他人ノ看守シタル時之ヲ竊取シタル者ハ竊盜ヲ以テ論ス

第三百七十二條 田野ニ於テ穀類菜菓其他ノ產物ヲ竊取シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス

第三百七十三條 山林ニ於テ竹木礦物其他ノ產物ヲ竊取シ又ハ川澤池沼湖海ニ於テ人ノ生養シ若クハ營業ニ關スル產物ヲ竊取シタル者ハ亦前條ニ同シ

第三百七十四條 牧場ニ於テ牧畜ノ獸類ヲ竊取シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス

第三百七十五條 此節ニ記載シタル輕罪ヲ犯サントシテ未ダ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第三百七十六條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

第三百七十七條 祖父母父母夫妻子孫及ヒ其配偶者又ハ同居ノ兄弟姉妹互ニ其財物ヲ竊取シタル者ハ竊盜ヲ以テ論スルノ限ニ在ラル

第二節 強盜ノ罪

第三百七十八條 人ヲ脅迫シ又ハ暴行ヲ加ヘテ財物ヲ強取シタル者ハ強盜ノ罪ト爲シ輕懲役ニ處ス

第三百七十九條 強盜左ニ記載シタル情狀アル

刑罰 第三編 身體財產ニ對スル犯罪輕罪

四十五

第三百八十一條 強盜婦女ヲ強姦シタル者ハ無期徒刑ニ處シ死ニ致シタル者ハ死刑ニ處ス

第三百八十二條 竊盜財ヲ得テ其取還ヲ拒ク爲メ臨時暴行脅迫ヲ爲シタル者ハ強盜ヲ以テ論ス

第三百八十三條 藥酒等ヲ用ヒ人ヲ醉迷セシメ其財物ヲ盜取シタル者ハ強盜ヲ以テ論シ輕懲役ニ處ス

第三百八十四條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ニ因テ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

第三百八十五條 遺失及ヒ漂流ノ物品ヲ拾得テ

第三百八十五條 遺失及ヒ漂流ノ物品ヲ拾得テ

四十五

隠匿シ所有主ニ還付セス又ハ官署ニ申告セザル者ハ十一日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百八十六條 他人ノ所有地内ニ於テ埋藏ノ物品ヲ掘得テ隠匿シタル者ハ亦前條ニ同シ

第三百八十七條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者第三百七十七條ニ掲ケタル親屬ニ係ル時ハ其罪ヲ論セス

第四節 家資分散ニ關スル罪

第三百八十八條 家資分散ノ際其財産ヲ藏匿脱漏シ又ハ虚偽ノ負債ヲ増加シタル者ハ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處ス

情ヲ知テ虚偽ノ契約ヲ承諾シ若クハ其媒介ヲ爲シタル者ハ一等ヲ減ス

第三百八十九條 家資分散ノ際牒簿ノ類ヲ藏匿毀棄シ若クハ分散決定ノ後債主中ノ一人又ハ數人ニ其負債ヲ私償シテ他ノ債主ヲ害シタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス

第五節 詐欺取財ノ罪及ヒ委寄財物ニ關スル罪

第三百九十條 人ヲ欺罔シ又ハ恐喝シテ財物若クハ證書類ヲ騙取シタル者ハ詐欺取財ノ罪ト爲シ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

因テ官私ノ文書ヲ偽造シ又ハ増減變換シタル者ハ偽造ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第三百九十一條 幼者ノ知慮淺薄又ハ人ノ精神錯亂シタルニ乘シテ其財物若クハ證書類ヲ授與セシメタル者ハ詐欺取財ヲ以テ論ス

第三百九十二條 物件ヲ販賣シ又ハ交換スルニ當リ其物質ヲ變シ若クハ分量ヲ偽テ人ニ交付シタル者ハ詐欺取財ヲ以テ論ス

第三百九十三條 他人ノ動産不動産ヲ冒認シテ販賣交換シ又ハ抵當典物ト爲シタル者ハ詐欺取財ヲ以テ論ス

自己ノ不動産ト雖モ已ニ抵當典物ト爲シタル

ヲ欺隱シテ他人ニ賣與シ又ハ重テテ抵當典物ト爲シタル者亦同シ

第三百九十四條 前數條ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

第三百九十五條 受寄ノ財物借用物又ハ典物其他委託ヲ受ケタル金額物件ヲ費消シタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス若シ騙取拐帶其他詐欺ノ所爲アル者ハ詐僞取財ヲ以テ論ス

第三百九十六條 自己ノ所有ニ係ルト雖モ官署ヨリ差押ヘタル物件ヲ藏匿脱漏シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス但家資分散ノ際此罪ヲ犯シタル者ハ第三百八十八條ノ例ニ照シテ處斷ス

第三百九十七條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯サントシテ未ダ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第三百九十八條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シタ

刑法 第三編 身體財產ニ對スル重罪附屬

ル者第三百七十七條ニ掲ケタル親屬ニ係ル時ハ其罪ヲ論セス

第六節 贓物ニ關スル罪

第三百九十九條 強竊盜ノ贓物ナルヲ知テ之ヲ受ケ又ハ寄藏故買シ若クハ牙保ヲ爲シタル者ハ一月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第四百條 前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

第四百一條 詐欺取財其他ノ犯罪ニ關シタル物件ナルヲ知テ之ヲ受ケ又ハ寄藏故買シ若クハ牙保ヲ爲シタル者ハ十一日以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第七節 放火失火ノ罪

第四百二條 火ヲ放テ人ノ住居シタル家屋ヲ燬シタル者ハ死刑ニ處ス

第四百三條 火ヲ放テ人ノ住居セサル家屋其他

ノ建造物ヲ燒燬シタル者ハ無期徒刑ニ處ス
第四百四條 火ヲ放テ廢屋及ヒ柴草肥料等ヲ貯
フル屋舎ヲ燒燬シタル者ハ重懲役ニ處ス

第四百五條 火ヲ放テ人ヲ乘載シタル船舶氣車
ヲ燒燬シタル者ハ死刑ニ處ス其人ヲ乘載セザ
ル船舶氣車ニ係ル時ハ重懲役ニ處ス

第四百六條 火ヲ放テ山林ノ竹木田野ノ穀麥又
ハ露積シタル柴草竹木其他ノ物件ヲ燒燬シタ
ル者ハ輕懲役ニ處ス

第四百七條 火ヲ放テ自己ノ家屋ヲ燒燬シタル
者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス

第四百八條 放火ノ罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル
者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

第四百九條 火ヲ失シテ人ノ家屋財産ヲ燒燬シ
タル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四百十條 火藥其他激發ス可キ物品又ハ煤氣
井戸蒸氣罐ヲ破裂セシメテ人ノ家屋財産ヲ毀
壞シタル者ハ其故意ニ出ルト過失トチ分チ放

シタル船舶ヲ覆没シタル者ハ死刑ニ處ス但船
中死亡ナキ時ハ無期徒刑ニ處ス

第四百十六條 前條ノ所爲ヲ以テ人ヲ乘載セザ
ル船舶ヲ覆没シタル者ハ輕懲役ニ處ス

第十節 家屋物品ヲ毀壞シ及ヒ動植物ヲ
害スル罪

第四百十七條 人ノ家屋其他ノ建造物ヲ毀壞シ
タル者ハ一月以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ二
圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各本
條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第四百十八條 人ノ家屋ニ屬スル牆壁及ヒ園池
ノ裝飾又ハ田圃ノ樊園牧場ノ柵欄ヲ毀壞シタ
ル者ハ十一月以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ又
ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四百十九條 人ノ稼穡竹木其他需用ノ植物ヲ
毀損シタル者ハ十一月以上六月以下ノ重禁錮
ニ處シ又ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

火失火ノ例ニ照シテ處斷ス

第八節 決水ノ罪

第四百十一條 堤防ヲ決潰シ又ハ水閘ヲ毀壞シ
テ人ノ住居シタル家屋ヲ漂失シタル者ハ無期
徒刑ニ處ス

若シ人ノ住居セサル家屋其他ノ建造物ヲ漂失
シタル者ハ重懲役ニ處ス

第四百十二條 堤防ヲ決潰シ水閘ヲ毀壞シ田
圃礦坑牧場等ヲ荒廢シタル者ハ輕懲役ニ處ス

第四百十三條 他人ノ便益ヲ損シ又ハ自己ノ便
益ヲ圖ル爲メ堤防ヲ決潰シ水閘ヲ毀壞シ其他
水利ヲ妨害シタル者ハ二月以上二年以下ノ重
禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加
ス

第四百十四條 過失ニ因テ水害ヲ起シタル者ハ
失火ノ例ニ照シテ處斷ス

第九節 船舶ヲ覆没スル罪

第四百十五條 衝突其他ノ所爲ヲ以テ人ヲ乘載
シタル船舶ヲ覆没シタル者ハ一月以上六月以下ノ
重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附
加ス

第四百二十一條 人ノ器物ヲ毀棄シタル者ハ十
一日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ三圓以
上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四百二十二條 人ノ牛馬ヲ殺シタル者ハ一月
以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓
以下ノ罰金ヲ附加ス

第四百二十三條 前條ニ記載シタル以外ノ家畜
ヲ殺シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ
處ス但被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第四百二十四條 人ノ權利義務ニ關スル證書類
ヲ毀棄滅盡シタル者ハ二月以上四年以下ノ重
禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加
ス

第四編 違警罪

第四百二十五條

左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ三日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

一規則ヲ遵守セスシテ火藥其他破裂ス可キ物品ヲ市街ニ運搬シタル者

二規則ヲ遵守セスシテ火藥其他破裂ス可キ物品又ハ自ラ火ヲ發ス可キ物品ヲ貯藏シタル者

三官許ヲ得スシテ烟火ヲ製造シ又ハ販賣シタル者

四人家稠密ノ場所ニ於テ濫リニ烟火其他火器ヲ玩ヒタル者

五蒸氣器械其他烟筒火竈ヲ建造修理シ及ヒ掃除スル規則ニ違背シタル者

六官署ノ督促ヲ受ケテ崩壞セントスル家屋牆壁ノ修理ヲ爲サ、ル者

七官許ヲ得スシテ死屍ヲ解剖シタル者

八自己ノ所有地内ニ死屍アルヲ知テ官署ニ

三不熟ノ菓物又ハ腐敗シタル飲食物ヲ販賣シタル者

四健康ヲ保護スル爲メ設ケタル規則又ハ傳染病豫防規則ニ違背シタル者

五人ノ通行ス可キ場所ニアル危険ノ井溝其他凹所ニ蓋又ハ防圍ヲ爲サ、ル者

六路上ニ於テ犬其他ノ獸類ヲ嘯シ又ハ驚逸セシメタル者

七發狂人ノ看守ヲ怠リ路上ニ徘徊セシメタル者

八狂犬猛獸等ノ繫鎖ヲ怠リ路上ニ放チタル者

九變死人ノ檢視ヲ受ケスシテ埋葬シタル者

十墓碑及ヒ路上ノ神佛ヲ毀損シ又ハ汚瀆シタル者

十一神祠佛堂其他公ノ建造物ヲ汚損シタル者

十二公然人ヲ罵詈嘲弄シタル者但訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第四百二十七條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ一日

刑法 第四編 違警罪

五十

申告セス又ハ他所ニ移シタル者

九人ヲ毆打シテ創傷疾病ニ至ラサル者

十密ニ賣淫ヲ爲シ又ハ其媒合容止ヲ爲シタル者

十一人ノ住居セサル家屋内ニ潜伏シタル者

十二定リタル住居ナク平常營生ノ産業ナクシテ諸方ニ徘徊スル者

十三官許ノ墓地外ニ於テ私ニ埋葬シタル者

十四違警罪ノ犯人ヲ曲庇スル爲メ偽證シタル者但被告人偽證ノ爲メ刑ヲ免ガレタル時ハ第二百十九條ノ例ニ從フ

第四百二十六條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ二日以上五日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五十錢以上一圓五十錢以下ノ科料ニ處ス

一人家ノ近傍又ハ山林田野ニ於テ濫リニ火焚ク者

二水火其他ノ變ニ際シ官吏ヨリ防禦ス可キノ求メテ受ケ傍觀シテ之ヲ肯セサル者

以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ二十錢以上一圓二十五錢以下ノ科料ニ處ス

一濫リニ車馬ヲ疾驅シテ行人ノ妨害ス爲シタル者

二制止ヲ肯セスシテ人ノ群集シタル場所ニ車馬ヲ牽キタル者

三夜中燈火ナクシテ車馬ヲ疾驅スル者

四木石等ヲ道路ニ堆積シテ防圍ヲ設ケス又ハ標識ノ點燈ヲ怠リタル者

五瓦礫ヲ道路家屋園圍ニ投擲シタル者

六禽獸ノ死屍ヲ道路ニ棄擲シ又ハ取除カサル者

七汚穢物ヲ道路家屋園圍ニ投擲シタル者

八警察ノ規則ニ違背シテ工商ノ業ヲ爲シタル者

九醫師穩婆事故ナクシテ急病人ノ招キニ應セサル者

十死亡ノ申告ヲ爲サスシテ埋葬シタル者

五十一

- 十一 流言浮説ヲ爲シテ人ヲ誣惑シタル者
- 十二 妄ニ吉凶禍福ヲ説キ又ハ祈禱符呪等ヲ爲シ人ヲ惑ハシテ利ヲ謀ル者
- 十三 私有地外ヘ濫リニ家屋牆壁ヲ設ケ又ハ軒楹ヲ出シタル者
- 十四 官許ヲ得スシテ路傍又ハ河岸ニ床店等ヲ開キタル者
- 十五 路上ノ植木市街ノ常燈及ヒ圃場等ヲ毀損シタル者
- 十六 道路橋梁其他ノ場所ニ榜示シタル通行禁止及ヒ指道標ノ類ヲ毀棄汚損シタル者
- 第四百二十八條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ一日ノ拘留ニ處シ又ハ十錢以上一圓以下ノ科料ニ處ス
- 一 官署ヨリ價額ヲ定メタル物品ヲ定價以上ニ販賣シタル者
- 二 渡船橋梁其他ノ場所ニ於テ定價以上ノ通行錢ヲ取り又ハ故ナク通行ヲ妨ケタル者

- 三 渡船橋梁其他通行錢ヲ拂フ可キ場所ニ於テ其定價ヲ出サスシテ通行セタル者
- 四 路上ニ於テ賭博ニ類スル商業ヲ爲シタル者
- 五 官許ヲ得スシテ劇場其他觀物場ヲ開キ及ヒ其規則ニ違背シタル者
- 六 溝渠下水ヲ浚ハサル者
- 七 制止ヲ肯セスシテ路傍ニ食物其他ノ商品ヲ羅列シタル者
- 八 官許ヲ得スシテ獸類ヲ官有地ニ放チ又ハ牧畜シタル者
- 九 身體ニ刺文ヲ爲シ及ヒ之ヲ業トスル者
- 十 他人ノ繫キタル牛馬其他ノ獸類ヲ解放シタル者
- 十一 他人ノ繫キタル舟筏ヲ解放シタル者
- 第四百二十九條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ五錢以上五十錢以下ノ科料ニ處ス
- 一 橋梁又ハ堤防ノ害ト爲ル可キ場所ニ舟筏ヲ

繫キタル者

- 二 牛馬諸車其他物件ヲ道路ニ横タヘ又ハ木石薪炭等ヲ堆積シテ行人ノ妨害ヲ爲シタル者
- 三 車馬ヲ並ヘ牽テ行人ノ妨害ヲ爲シタル者
- 四 水路ニ於テ舟ヲ並ヘ通船ノ妨害ヲ爲シタル者
- 五 氷雪塵芥等ヲ路上ニ投棄シタル者
- 六 官署ノ督促ヲ受ケテ道路ノ掃除ヲ爲サハル者
- 七 制止ヲ肯セスシテ路上ニ遊戯ヲ爲シ行人ノ妨害ヲ爲シタル者
- 八 牛馬ヲ牽キ又ハ繫クフヲ忽カセニシテ行人ノ妨害ヲ爲シタル者
- 九 出入ヲ禁止シタル場所ニ濫リニ出入シタル者
- 十 通行禁止ノ榜示ヲ犯シテ通行シタル者
- 十一 道路ニ於テ放歌高聲ヲ發シテ制止ヲ肯セサル者

十二 酩酊シテ路上ニ喧噪シ又ハ醉臥シタル者

- 十三 路上ノ常燈ヲ消シタル者
- 十四 人家ノ牆壁ニ貼紙及ヒ樂書シタル者
- 十五 邸宅ノ番號標札招牌又ハ貸家賣家ノ貼紙其他報告ノ榜標等ヲ毀損シタル者
- 十六 他人ノ田野園圃ニ於テ菜菓ヲ採食シ又ハ花卉ヲ採折シタル者
- 十七 公園ノ規則ヲ犯シタル者
- 十八 通路ヲキ他人ノ田圃ヲ通行シ又ハ牛馬ヲ牽入レタル者
- 第四百三十條 前數條ニ記載スルノ外各地方ノ便宜ニヨリ定ムル所ノ違警罪ヲ犯シタル者ハ其罰則ニ從テ處斷ス

○刑法附則 明治十四年十二月十九日

刑法附則別冊ノ通相定メ明治十五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス
右奉 勅旨布告候事

(別冊)

刑法附則

第一章 主刑執行

第一條 死刑ハ其執行ヲ爲ス裁判所ノ檢察官書記及ヒ獄司行場ニ立會獄司ヨリ人囚ニ死刑ヲ執行スヘキコトヲ告示シタル後獄丁チシテ之ヲ執行セシム但其期限ハ午前十時前トス

第二條 死刑ヲ行フ時ハ刑場ノ警戒ヲ嚴ニシ執行ニ關スル者ノ外刑場ニ入ルコトヲ許サズ但立會官吏ノ許可ヲ得タル者ハ此限ニアラス

第三條 死刑ノ執行畢リタル時ハ書記其始末書ヲ作り立會ヲ爲シタル官吏ト共ニ署名捺印シ之ヲ裁判所ノ檢事局ニ納ム可シ

第四條 左ニ記載シタル日ハ死刑ヲ行フコトヲ禁ス

元始祭

孝明天皇祭

紀元節

春季皇靈祭

仁孝天皇祭

神武天皇祭

六月大祓

秋季皇靈祭

神宮神嘗祭

天長節

後桃園天皇祭

新嘗祭

光格天皇祭

十二月大祓

第五條 死刑ノ宣告ヲ受ケタル婦女懐胎ト申スル者ハ醫師及ヒ穩婆ヲシテ之ヲ検査セシメ果シテ懐胎ナル時ハ檢察官ヨリ司法卿ニ上申シテ其執行ヲ停メ産後一百日ヲ經テ更ニ司法卿ノ命令ヲ受ケ執行スヘシ

第六條 死刑ノ遺骸ハ一定ノ場所ニ埋ム若シ親屬故舊請フ者アル時ハ獄司之ヲ許可シ下付ス

獄司ヨリ内務司法兩卿ニ上申シ其許可ヲ受ケ

ルコトヲ得

第七條 死刑ノ宣告ヲ受ケタル者執行ニ至ルマ

テ何時ニテモ獄司ノ許可ヲ得テ其親屬故舊ニ

接見スルコトヲ得

第八條 死刑ヲ執行シタル時ハ犯人ノ屬籍氏名

年齢職業住所及ヒ其罪狀刑名ヲ記載シテ左ノ

各所ニ榜示公告ス可シ

刑ヲ宣告シタル裁判所ノ門前

犯罪ノ地

犯人住居ノ地

第九條 徒流ノ囚ヲ發遣スルハ其地ヲ爲シタル

地ノ獄司ヨリ内務卿ニ上申シ其命令ヲ待テ發

船ノ地ニ護送ス可シ

第十條 徒刑ノ囚ハ島地ニ於テ便宜ニ從ヒ獄外

ノ役ニ服セシムルコトヲ得

第十一條 流刑ノ囚幽閉中獄内ニ於テ自ラ工業

ヲ爲サント請フ者ハ獄司之ヲ許ス可シ

第十二條 流刑ノ囚幽閉ヲ免ス可キ者アル時ハ

刑法附則

一ニシ

第十三條 徒刑ノ囚假出獄ヲ許サレタル者又ハ

流刑ノ囚幽閉ヲ免セラレタル者家族ヲ招キ同

居スルコトヲ請フ時ハ之ヲ許スコトヲ得但シ旅費ハ

自ラ之ヲ辨ス可シ

第十四條 流刑ノ囚幽閉ヲ免シ地ヲ限リ居住セ

シムル者ハ監獄近傍ノ地ヲ限リ獄司ノ監督ヲ

受ケシム若シ已ムコトヲ得サル事故アル時ハ獄

司ニ請フテ限外ニ出ルコトヲ得

第十五條 流刑ノ囚幽閉ヲ免セラレタル者再ヒ

罪ヲ犯シタル時ハ本刑期限内ト雖モ島地ニ於

テ直チニ其行ヲ執行ス可シ

第十六條 懲役重禁錮ノ囚ハ便宜ニ從ヒ獄外ノ

役ニ服セシムルコトヲ得

第十七條 禁獄輕禁錮ノ囚獄内ニ於テ自ラ工業

ヲ爲サント請フ者ハ獄司之ヲ許ス可シ

第十八條 服役限内更ニ罪ヲ犯シ再ヒ定役ニ服

スル者後犯ノ刑期百日以内ハ工錢ヲ給與セズ

第十九條 囚人ニ給與スル工錢ノ額ヲ定メ之ヲ

交付シ及ヒ領置スル方法ハ監獄ノ規則ニ從フ

第二十條 罰金科料ノ宣告ヲ受ケ未ダ納完セサ

ル前ニ於テ犯人身死スル時ハ之ヲ徵收セズ附

加ノ罰金ニ於テ亦同シ

第二章 監視

第二十一條 監視ハ主刑ノ終リタル後仍ホ將來

ヲ檢束スル爲メ警察官吏ヲシテ犯人ノ行狀ヲ

監視セシムル者トス

第二十二條 監視ニ付ス可キ者ハ豫メ其住所ヲ

定メシメ主刑ノ終リタル時典獄ヨリ最近ノ警

察所ニ護送シ其警察所ヨリ住居ノ地ノ警察所

ニ送致シ監視ヲ執行セシム但主刑ノ期滿免除

ヲ得タル者又ハ主刑ヲ免シ止テ監視ニ付スル

者ハ其裁判所ノ檢察官ヨリ護送スヘシ十五年

二號布告ヲ以テ全條改正 第四拾

第二十三條 犯人ヲ警察所ニ護送スル時ハ其監

視ノ起算滿期ヲ記載シタル文書及ヒ刑名宣告

書ノ謄本ヲ附ス可シ

第二十四條 同上布告ヲ以テ削除ス

第二十五條 警察所ヨリ犯人ヲ住居ノ地ノ警察

所ニ送致スル時ハ其里程ヲ計リ日數ヲ限定シ

テ旅券ヲ付與シ犯人到着ノ日直チニ之ヲ其地

ノ警察所ニ差出サシム但途中事故アリテ淹滯

シタル時ハ第三十一條ノ例ニ從フ可シ

犯人ヲ送致スル時ハ第二十三條ニ記載シタル

書類ヲ其地ノ警察所ニ遞送ス可シ

第二十六條 犯人住居ノ地ノ警察所ニ於テハ監

視ノ期間遵守ス可キ條件ヲ讀聞カセ監視ノ

票ヲ下付ス可シ

第二十七條 監視ニ付セラレタル者ハ其期間

左ノ條件ヲ遵守ス可シ

一 毎月二度所轄ノ警察所ニ到リ其謹慎ナルヲ

ヲ表シ監視ノ票ヲ出シ官吏ノ認印ヲ受ケ可シ

但疾病又ハ已ムトシ得サル事故アリテ警察所

ニ到ルヲ能ハサル時ハ其事由ヲ届出ツ可シ

二 酒宴遊興ノ席ニ會シ又ハ群集ノ場所ニ參會

スルヲ許サズ

三 事故アリテ其住居ヲ轉移セントスル時ハ警

察所ニ申請シ許可ヲ受ケ可シ

四 擅ニ他ノ地方ニ旅行スルヲ許サズ若シ已

ムトシ得サル事故アル時ハ其事由ヲ警察所

ニ具申シ許可ヲ受ケ可シ

第二十八條 監視ノ期間ハ警察官吏時宜ニ因

リ其家宅ニ臨檢スルヲアルベシ

第二十九條 警察所ニ於テ住居ヲ轉スルヲ許

可シタル時ハ其事由ヲ轉住ノ地ノ警察所ニ通

知シ第二十三條ニ記載シタル書類ヲ遞送ス可

第三十條 他ノ地方ニ旅行スルヲ許シタル

時ハ其里程ヲ計リ先方ノ地ニ滯留スル時日ヲ

算シ往復日數ヲ限定シテ旅券ヲ付與ス可シ

犯人先方ノ地ニ到レハ其地ノ警察所ニ出テ旅

刑法附錄

第三十一條 旅行中天災又ハ疾病等ニ因リ臨時

淹滯シタル時ハ事由ヲ其地ノ警察所ニ具申シ

官吏ノ證書ヲ受ケ歸着ノ日旅券ニ添ヘ警察所

ニ差出ス可シ

第三十二條 監視ニ付スル者住居ナク及ヒ引取

人ナキ時ハ其期間懲治場ニ留置シ工業ヲ爲

サシメ又ハ使役ニ供ス住居遠地ニ在テ歸着ス

ル資力ナキ者亦同シ

第三十三條 懲治場ニ留置シタル者限内引取人

ヲ得又ハ住居ノ地ニ歸着スル資力ヲ得タル時

ハ其地ニ送致シテ殘期ノ監視ヲ執行セシム可

第三十四條 刑期限内再ヒ罪ヲ犯シ初犯再犯共

ニ監視ニ付スヘキ時又ハ監視ノ期間間再ヒ罪

ヲ犯シ更ニ監視ニ付スヘキ時ハ並ニ主刑滿限

ノ後前後ノ期限ヲ通算シテ監視ヲ執行ス可シ

五十七

第三十五條 罰金ヲ禁錮ニ換ヘケル者監視ニ付

ス可キ時ハ其禁錮ノ日數ヲ監視ノ期限ニ算入
ス可シ

第三十六條 監視ニ付セラレタル者其規則ヲ謹
守シ悛改ノ狀アル時ハ警察官ヨリ其實情ヲ上
申シ内務司法兩卿ノ命ヲ受ケテ假ニ監視ヲ免
スルヲ得

第三十七條 假ニ監視ヲ免セラレタル者住居ヲ
轉移スル時ハ第二十七條第三及ヒ第二十九條
ノ例ニ從フ可シ

第三章 假出獄及ヒ特別監視

第三十八條 假出獄ヲ許ス可キ者アル時ハ獄
司ヨリ其犯人ノ行狀及ヒ刑名入獄ノ年月ヲ記
載シ假ニ出獄ヲ許サレントシ内務司法兩卿ニ
上申シテ許可ヲ受フ可シ

第三十九條 假出獄ヲ許シタル時ハ獄司ヨリ其
證票ヲ犯人ニ下附ス可シ

第四十條 假出獄證票ニハ左ノ條件ヲ記載ス可
シ

第四十四條 特別監視ニ付セラレタル者ハ其期
限間左ノ條件ヲ遵守ス可シ

一 毎週間一度所轄ノ警察所ニ到リ其謹慎ナル

ヲ表シ監視ノ票ヲ出シ官吏ノ認印ヲ受ク
可シ但疾病又ハ已ムヲ得サル事故アリテ

警察所ニ到ルヲ能ハサル時ハ其事由ヲ届出
ツ可シ

二 酒宴遊興ノ席ニ會シ又ハ群集ノ場所ニ參會
スルヲ許サス

三 事故アリテ住居ヲ轉移セシトスル時ハ警察
所ニ申請シ許可ヲ受クベシ但他ノ府縣ニ轉

移スルヲ許サス
四 往復一日程ヲ過ル地ニ旅行スルヲ許サ
ス

第四十五條 特別監視ノ期限間ハ警察官吏時宜
ニ因リ其家宅ニ臨檢スルヲアル可シ

第四十六條 假出獄ヲ許サレタル者刑期滿限ノ
日ニ至レハ假出獄證票ヲ警察所ニ還納シ警察

刑法附錄

一 本人ノ屬籍氏名年齢住所罪名刑名及ヒ處刑
ノ年月日

二 殘期何年何月何日間假出獄ヲ許ス事

三 假出獄中ハ特別監視ニ付ス可キ事

四 假出獄中更ニ重輕罪ヲ犯シタル時ハ直チニ
出獄ヲ停止シ出獄中ノ日數ヲ刑期ニ算入セ
サル事

第四十一條 重罪ノ刑ニ處セラレタル者假出獄
中自ラ財產ヲ治メ若クハ職業ヲ營マントスル
時ハ警察所ニ申請シ許可ヲ受フ可シ

第四十二條 假出獄ヲ許ス可キ者ハ豫メ其住所
ヲ定メシメ出獄ノ日典獄ヨリ其證票ノ謄本ヲ
添ヘ第二十二條ノ例ニ依リ犯人ヲ護送シ特別
監視ヲ執行セシム可シ十五年第四十二條

第四十三條 特別監視ニ付スル者ハ第二十三條
ノ例ニ從フ可シ

第二十四條 第二十五條 第二十六條 第二十九條
第三十一條ノ例ヲ適用ス

所ヨリ證票ヲ出シタル獄司ニ遞送ス可シ

主刑滿限ノ後監視ニ付ス可キ犯人ナリ時ハ警
察所ニ於テ第二章ノ例ニ從テ處分ス可シ

第四十七條 假出獄ヲ許ス可キ者住所ナク及ヒ
引取人ナキ時ハ第三十二條ノ例ニ從ヒ懲治場
ニ留置ス可シ

第四章 刑事裁判費用

第四十八條 豫審公判ニ付キ呼出シタル證人醫
師鑑定人通辯人翻譯人ニ給與ス可キ日當旅費
止宿料及ヒ第五十一條第五十二條ニ記載シタ
ル者ヲ以テ刑事ノ裁判費用ト爲ス

第四十九條 日當旅費及ヒ止宿料ハ左ノ制限ニ
據リ各地方適宜其額ヲ定ム可シ

日當五十錢以下
旅費一里拾錢以下

止宿料一宿貳拾五錢以下

住居三里以外ノ地ニ在ル者ハ往復旅費ヲ給シ
及ヒ呼出ノ地ニ滯在中ハ日當并ニ止宿料ヲ給

ス其三里未滿ノ地ニ在ル者ハ旅費止宿料ヲ給
セテ十六年第三拾九號布
告ヲ以テ全條改正

第五十條 證人ノ日常旅費及ヒ止宿料ハ本人ノ
請求アルニ非サレハ之ヲ給與セズ

第五十一條 證人日稼ヲ以テ生業トスル者治罪
法第九十條ニ從ヒ償金ヲ要求スル時ハ旅費
日當ノ外若干ノ償金ヲ給スルコトアル可シ

第五十二條 解剖含密等ノ費用及ヒ數多ノ時間
ヲ要スル翻譯料ノ類ハ日當ノ外別ニ之ヲ給與
ス可シ

第五十三條 裁判費用ノ宣告ヲ受ケ未タ之ヲ納
メサル前ニ於テ犯人身死スル時ハ其相續人ヨ
リ之ヲ徵收ス

第五章 賠償處分

第五十四條 贓物犯人ノ手ニ在ル時ハ直チニ被
害者ニ還付スト雖モ若シ輾轉シテ他人ノ手ニ
在ル時ハ被害者ノ請求ニ因リ還給セシムル者
トス

第五十五條 贓物輾轉シテ他人ノ手ニ在ル時公
商ニ由リ買取シタル物品ハ其公商若クハ被害
者ヨリ買取者ニ原價ヲ償ハサレハ直チニ還給
セシムルコトヲ得ス

若シ公商ニ由ラズシテ買取シタル物品ハ其還
給ヲ拒ムコトヲ得ス但其買取者ハ賣者ニ對シ轉
償ヲ求ムルコトヲ得

第五十六條 贓物ヲ受ケ又ハ典物トシテ受取
ル者其贓物現在スル時ハ還給ヲ拒ムコトヲ得ス
但典物トシテ受取タル者ハ典主ニ對シ轉償ヲ
求ムルコトヲ得

第五十七條 贓物交換シテ現在スル時ハ公商
由ルト否トテ區別シ第五十五條ノ例ニ從テ處
分ス可シ

第五十八條 贓物已ニ費用シタル時又ハ識別ス
可カラサル時又ハ其所在ノ知レサル時ハ損害
ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得

第五十九條 人ノ名譽若クハ殺傷ニ關シタル損

御名 御璽

明治二十三年十月八日

內閣總理大臣 伯爵山縣有朋
司法大臣 伯爵山田顯義

法律第百二號
刑法附則第四十九條ヲ左ノ如ク改メ次ニ左ノ三
條ヲ加フ

第四十九條 證人ノ日常ハ出頭一度ニ付金五十
錢トス但止宿料ヲ給スル場合ニ於テハ此日當
ヲ給セズ

第四十九條乙 醫師鑑定人通辯人翻譯人ノ日常
ハ出頭一度ニ付金五十錢乃至金五圓ノ範圍内
ニ於テ裁判所ノ意見ヲ以テ定ムル所ニ依ル

第四十九條丙 證人醫師鑑定人通辯人翻譯人ノ
旅費ハ海陸滿一里毎ニ付キ金拾錢トス通路兩
線以上アルトキハ最近ノ通路ヲ以テ旅費ヲ算
定ス

第四十九條丁 前條ニ記載シタル者ノ止宿料ハ

害其他犯罪ノ爲メ現ニ生シタル損害ハ其賠償
ヲ請求スルコトヲ得但失火ハ此限ニ在ラズ

第六十條 贓物ノ還給損害ノ賠償ハ其犯罪ヲ密
判スル刑事裁判所ニ請求スルコトヲ得若シ其密
判已ニ終リタル後ハ民事裁判所ニ非サレハ之
ヲ請求スルコトヲ得ス

第六十一條 刑事裁判所ニ於テ贓物ノ還給損害
ノ賠償ヲ請求スル時ハ通常ノ文書又ハ言語ヲ
以テ之ヲ爲ストヲ得其民事裁判所ニ請求スル
時ハ民事訴訟ノ程式ニ從フ可シ

第六十二條 贓物ノ還給損害ノ賠償ハ本犯死ス
ル時ハ其相續人ニ對シ之ヲ要求スルコトヲ得

第六十三條 贓物ノ還給損害ノ賠償ノ宣告ヲ受
ケタル者還給賠償セサル時ハ被害者ヨリ更ニ
民事裁判所ニ身代限ノ處分ヲ請求スルコトヲ得

○刑法附則中改正

朕刑法附則中改正追加ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公
布セシム

滯入里以外ノ地ヨリ來リ滯在スル時ハ一日金五十錢トス

○讒謗律 明治八年六月二十八日 布告第百拾號

讒謗律別冊之通被定候條此旨布告候事

(別冊)

讒謗律

第一條 凡ソ事實ノ有無ヲ論セス人ノ榮譽ヲ害スヘキノ行事ヲ摘發公布スル者之ヲ讒毀トス人ノ行事ヲ舉ルニ非スレテ惡名ヲ以テ人ニ加ヘ公布スル者之ヲ誹謗トス著作文書若クハ畫圖肖像ヲ用ヒ展觀シ若クハ發賣シ若クハ貼示シテ人ヲ讒毀シ若クハ誹謗スル者ハ下ノ條別ニ從テ罪ヲ科ス

第二條 第一條ノ所爲ヲ以テ乘輿ヲ犯スニ涉ル者ハ禁獄三月以上三年以下罰金五十圓以上千圓以下ニ罰シ科ス以下之ニ倣ヘ

第三條 皇族ヲ犯スニ涉ル者ハ禁獄十五日以上

六十二

二年半以下罰金十五圓以上七百圓以下

第四條 官吏ノ職務ニ關シ讒毀スル者ハ禁獄十日以上二年以下罰金十圓以上五百圓以下誹謗スル者ハ禁獄五日以上一年以下罰金五圓以上三百圓以下

第五條 華士族平民ニ對スルヲ論セス讒毀スル者ハ禁獄七日以上一年半以下罰金五圓以上三百圓以下誹謗スル者ハ罰金三圓以上百圓以下

第六條 法ニ依リ檢官若クハ法官ニ向テ罪犯ヲ告發シ若クハ證スル者ハ第一條ノ例ニアラス其ノ故造誣告セタル者ハ誣告律ニ依ル

第七條 若シ讒毀ヲ受ルノ事刑法ニ觸ル、者檢官ヨリ其事ヲ糾治スルカ若クハ讒毀スル者ヨリ檢官若クハ法官ニ告發シタル時ハ讒毀ノ罪ヲ治ムルヲ中止シ以テ事案ノ決ヲ俟チ其ノ被告人罪ニ坐スル時ハ讒毀ノ罪ヲ論セス若シ事刑法ニ觸レヌシテ單ヘコ人ノ榮譽ヲ害スル者ハ讒毀スルノ後官ニ告發スト雖モ仍ホ

讒毀ノ罪ヲ治ム

第八條 凡ソ讒毀誹謗ノ第四條第五條ニ係ル者ハ被害ノ官民自ラ告ルヲ待テ乃チ論ス

○賭博犯特別例廢止

朕明治十七年第一號布告廢止ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十二年六月十日

内閣總理大臣 伯爵黑田清隆
內務大臣 伯爵松方正義
司法大臣 伯爵山田顯義

法律第十七號

明治十七年第一號布告ヲ廢ス

(參照)第一號布告(明治十七年一月四日)

賭博犯ノ儀ハ刑法第二百六十條第二百六十一條ニ明文有之候ヘトモ當分ノ內行政警察ノ處分ニ屬シ東京ハ警視廳其他ハ地方官ヲシテ別紙賭博犯處分規則ニ依リ取締懲罰ノ

別紙附錄

事ヲ行ハシム(別紙略ス)

○決闘罪

朕決闘罪ニ同スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十二年十二月二十八日

内閣總理大臣 伯爵松方有朋
司法大臣 伯爵山田顯義

法律第三十四號

第一條 決闘ヲ挑ミタル者又ハ其挑ニ應シタル者ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二條 決闘ヲ行ヒタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三條 決闘ニ依テ人ヲ殺傷シタル者ハ刑法ノ各本條ニ照シテ處斷ス

第四條 決闘ノ立會ヲ爲シ又ハ立會ヲ爲スコト

六十三

ヲ約シタル者ハ證人介添人等何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ラヌ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス情ヲ知テ決闘ノ場所ヲ貸與シ又ハ供用セシメタル者ハ罰前項ニ同シ

第五條 決闘ノ挑ニ應セサルノ故ヲ以テ人ヲ誹毀シタル者ハ刑法ニ照シ誹毀ノ罪ヲ以テ論ス第六條 前數條ニ記載シタル犯罪刑法ニ照シ其重キモノハ重キニ從テ處斷ス

○竊盜罪

朕竊盜ノ罪ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十三年十一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

御名 御璽

明治二十三年十月八日

内閣總理大臣 伯爵山縣有朋
司法大臣 伯爵山田顯義

法律第九十九號

第一條 家屋其他ノ建造物外ニ於テ犯シタル竊盜ニシテ未ダ遂ケサル者又ハ已ニ遂ケタルモ其贓額五圓ニ滿サル者ハ十一日以上二月以下ノ重禁錮ニ處ス

第二條 田野、山林、剌澤、池沼、湖海ニ於テ其產物ヲ竊取セントシ又ハ牧場ニ於テ其獸類ヲ竊取セントシテ未ダ遂ケサル者又ハ已ニ竊取シタルモ其贓額五圓ニ滿サル者亦前條ニ同シ

第三條 前二條ニ記載シタル贓額ハ犯罪ノ地及ヒ其時ニ於ケル物價ニ據リ裁判所之ヲ定ム但贓物現存セサルトキハ其中等ノ價額ニ據ル可シ

○公署公吏公署ノ印文書及免狀鑑札ニ關スル件

朕公署、公吏並公署ノ印、文書及免狀鑑札ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十三年十一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

御名 御璽

明治二十三年十月八日

内閣總理大臣 伯爵山縣有朋
司法大臣 伯爵山田顯義

法律第百號

刑法中官廳、官署ニ關スル條項ハ公署ニ適用シ官吏ニ關スル條項ハ公吏ニ適用シ官ノ印、文書及免狀、鑑札ニ關スル條項ハ公署ノ印、文書及免狀鑑札ニ適用ス

○新舊法比照例(明治十四年十二月布告第八十一號)

刑法第三第二項ニ依リ新舊法ヲ比照スルニハ左ノ例ニ從フヘシ

- 新法 舊法
- 一 死刑 斬絞
- 二 無期徒刑 懲役終身
- 三 有期徒刑 禁獄終身
- 四 無期流刑 禁獄終身
- 五 有期流刑 禁獄終身

刑法附錄

第一條 家屋其他ノ建造物外ニ於テ犯シタル竊盜ニシテ未ダ遂ケサル者又ハ已ニ遂ケタルモ其贓額五圓ニ滿サル者ハ十一日以上二月以下ノ重禁錮ニ處ス

第二條 田野、山林、剌澤、池沼、湖海ニ於テ其產物ヲ竊取セントシ又ハ牧場ニ於テ其獸類ヲ竊取セントシテ未ダ遂ケサル者又ハ已ニ竊取シタルモ其贓額五圓ニ滿サル者亦前條ニ同シ

第三條 前二條ニ記載シタル贓額ハ犯罪ノ地及ヒ其時ニ於ケル物價ニ據リ裁判所之ヲ定ム但贓物現存セサルトキハ其中等ノ價額ニ據ル可シ

○公署公吏公署ノ印文書及免狀鑑札ニ關スル件

朕公署、公吏並公署ノ印、文書及免狀鑑札ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十三年十一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

御名 御璽

六 重懲役 懲役十年

七 輕懲役 懲役七年

八 重禁獄 禁獄十年

九 輕禁獄 禁獄七年

十 重禁錮 懲役十一日以上五年以下

十一 輕禁錮 禁獄鎖禁十一日以上五年以下

十二 罰金 贖罪収贖罰金科料二圓以上

十三 拘留 懲役禁獄鎖錮拘留十日以下

十四 觀罪収贖罰金科料二圓未滿

第二條 舊法ノ刑期新法主刑ノ刑期內ニ在ル時

ハ新法ニ從フ但舊法ノ刑期ニ過クルコトヲ得ス

(舊法ニ於テ懲役百日ニ該ル者新法ニ照シ二

月以上四年以下ノ重禁錮ニ該ル時ハ新法ニ從

ヒ二月以上百日以下ノ重禁錮ニ處スルノ類)

若シ舊法ノ刑期法主刑ノ短期ニ等シクシテ舊

法ニ定役ナク新法ニ定役アル時ハ舊法ニ從フ

(舊法二十日ニ該ル者新法ニ照シ一月以上一

年以下ノ重禁錮ニ該ル時ハ舊法ニ從ヒ禁獄三

六十五

十日ニ處スルノ類)

第三條 舊法新法ノ刑共ニ短期長期アル者ハ其

短期ノ短キ者ニ從フ但其長期ノ短キ者ニ過ル

ヲ得ス(舊法ニ於テ一年以上三年以下ノ懲

役ニ該ル者新法ニ照ラシ三月以上四年以下ノ

重禁錮ニ該ル者ハ新法ニ從ヒ三月以上三年以

下ノ重禁錮ニ處スルノ類)若シ舊法新法ノ刑

其短期等シクシテ舊法ニ定役ナク新法ニ定役

アル時ハ舊法ニ從フ舊法ニ於テ二月以上三年

以下ノ禁獄ニ該ル者新法ニ照ラシ二月以上二

年以下ノ重禁錮ニ該ル時ハ舊法ニ從ヒ二月以

上二年以下ノ禁獄ニ處スル類)

第四條 舊法ノ贖罪収贖若クハ罰金料ノ金額

新法主刑ノ金額内ニ在ル時ハ新法ニ從フ但舊

法ノ金額ニ過クルヲ得ス

第五條 舊法新法ノ罰金料共ニ多數寡數アル

者ハ其寡數ノ寡キ者ニ從フ但其多數ノ寡キ者

ニ過クルヲ得ス

第六條 舊法ニ於テ單ニ體刑ニ該ル者新法ニ於

テ罰金ヲ附加スヘキ時ハ其罰金ヲ附加セス

第七條 舊法ニ於テ體刑ニ該ル者新法ニ於テ罰

金料ニ該ル時ハ新法ニ從ヒ舊法ニ於テ贖罪

収贖若クハ罰金料ニ該ル者新法ニ照シ體刑

ニ該ル者ハ舊法ニ從フ

第八條 舊法ニ從ヒ贖罪収贖ニ處シタル者其金

額ヲ延期限内ニ納完スル能ハサル時ハ一圓ヲ

一日ニ折算シ輕禁錮又ハ拘留ニ換フ但一圓未

滿ト雖モ仍ホ一日ニ計算ス

第九條 舊法ニ於テ體刑ニ該ル者新法ニ從ヒ重

罪ノ刑ニ處スル時ハ新法ノ附加刑ヲ適用セス

但除族退位記沒收ノ類ハ舊法ニ從フ

第十條 舊法ニ於テ體刑ニ該ル者新法ニ從ヒ禁

錮ノ刑ニ處スル時ハ監視ヲ附加セス

第十一條 華士族ノ犯罪新法ニ於テ輕罪ニ該ル

者舊法ニ從ヒ處斷スル時ハ其族ヲ除セス

第十二條 新法ト舊法ト比照スルニハ各其本法

ニ照シ加減シタル者ヲ以テ本刑ト爲ス

第十三條 舊法ニ於テ棒鎖ニ該ル者ハ仍ホ棒鎖

ニ處ス

右奉 勅旨布告候事

○罰例處斷法(明治十四年十二月)

明治十五年一月一日ヨリ刑法施行候ニ付法律規

則中罰例ニ係ルモノハ左ノ例ニ照シテ處斷ス

第一條 凡ソ懲役ハ十一日以上ヲ以テ重禁錮ニ

處シ十日以下ノ拘留ニ處ス

第二條 凡ソ禁獄及禁錮ハ十一日以上ヲ輕禁錮

ニ處シ十日以下ヲ拘留ニ處ス

第三條 凡ソ罰金及料料ハ貳圓以上ヲ罰金ニ處

シ貳圓未滿ヲ五錢以上壹圓九十五錢以下ノ料

料ニ處ス

第四條 法ニ照シ律ニ照シ若クハ違令違式ニ照

シ處斷ストアリ及答可申付トアルハ總テ貳圓

以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五條 法律規則ヲ犯シタル者ハ刑法ノ再犯

罰法附錄

加重及數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第六條 法律規則中罰例アリト雖モ刑法ニ正條

アルモノハ刑法ニ據テ處斷ス

第七條 前數條ノ罪ヲ犯シ拘留料料ニ處スルモ

ノト雖モ輕罪裁判所ニ於テ之ヲ處斷ス

但始審裁判所々在ノ地ヲ除クノ外ハ治安裁

判所ニ於テ之ヲ裁判スルヲ得

○陸軍上等卒犯罪處斷方(明治十九年九月)

今般太政官ヨリ左ノ通御達有之候條此旨相違候

事

陸軍上等卒ニシテ刑法特ニ官吏ノ爲メニ定メタ

ル罪ヲ犯シタル時ハ都テ官吏ニ準シ候儀ト可相

心得此旨相違候事

○軍人制服着用無燈火乘馬ノ件(明治十五年四月)

刑法第四百二十七條第三項夜中燈火ナクシテ車

馬ヲ疾驅スル者ト有之候處軍人軍服ヲ着用乘馬

シタル者ハ右ノ限ニ無之候條此旨相違候事

○地方違警罪目發布届出方(明治十四年八月)

刑法第四百三十條ニ依リ各地方便宜ニ從ヒ違警罪目ヲ定メ發行シタルトキハ之ヲ主務省へ届出ヘシ此旨相達候事

○議會並議員保護ノ件(明治廿二年十一月)

朕議會並議員保護ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 法律ヲ以テ組織シタル議會ニ對シ公然

誹毀侮辱シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス但

議會ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第二條 前條議會ノ議員ニ對シ其公務上ノ言論

行爲ニ付公然誹毀侮辱シタル者又ハ議員ニ暴行ヲ加ヘタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮

ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三條 議員其公務ヲ行フニ當リ暴行脅迫ヲ以

テ其言論行爲ヲ妨害シタル者ハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰

金ヲ附加ス

第四條 議員ノ職ヲ辭セシムルノ目的又ハ其公務上ノ言論行爲ヲ妨害セントスル目的ヲ以テ

議員ヲ脅迫シ又ハ恐喝シタル者ハ一日以上十二月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下

ノ罰金ヲ附加ス但被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ

論ス

第五條 第二條第三條ノ罪ヲ犯シ因テ議員ヲ毆

傷シタル者ハ刑法毆打創傷ノ各本條ニ照シ一等ヲ加ヘ重キニ從テ處斷ス



明治廿六年七月一日印刷發行
全 廿七年二月十八日再版
全 廿八年三月廿八日三版
全 三十年七月廿四日四版
全 三十年十二月廿五日五版

發行兼印刷者

長島恭三郎

東京日本橋區大傳馬町二丁目廿二番地

發賣所

長島文昌堂

全 所

全

長島盛化堂

埼玉縣北足立郡鴻巣町百十四番地

全

全國各書肆